WASON
Dec. 18
no. 295

女學雜誌

第二百九十五號
明治二十四年十二月十二日發兌

女子高等師範學校存廢の議に關し聊か卑見を吐露し本紙上に掲載致候に付高覽なし被下度候敬白

女學雜誌社

衆議院議員諸君

坐下

下六番町六番地
女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 295. DECEMBER 12TH. 1891.

第二百九十五號目次

EDITORIAL:—The Closing Year. The Power against the Great Social Impurity. The Chingakkō in Mie Pref. A Shameless advertisement. The Soul and Body of the Sufferer. Anti-Prostitution in the Place of Disaster. Christians who Discountenance Evangelizing the Place of Disaster.

CHILDREN'S COLUMN:—Little Lord Fauntleroy (A Translation.)

NOVEL:—"Kareobana."

MISCELLANEOUS:—"Sekigahara." (A Poem.) Life of Mrs. Nakagawa.

THE HOUSEHOLD;—When to Begin Educating a Child.

LITERARY:—Wives of Poets. French Novels.

CRITICAL NOTES.

OPEN LETTER.

CONTRIBUTIONS.

CONCERNING WOMEN.

●社說　年將に暮んとす○廢娼論の勢力○三重縣尋常中學校○奇怪の廣告○震地の救濟及傳道○震災地の廢娼○教徒の非傳道

●兒籃　小公子（しづ子）

●小說　枯尾花（ひさご）

●雜錄　關原（雲峯子）○中川女史の傳

●家政　胎教（山下石翁）

●文學　俳諧師の妻（加賀の千代）○佛國の小說

●批評　女子文範○和田垣君の答○麗芳第十種及新著百種の小說

●開書　女子高等師範學校の存廢に付き衆議院諸君に呈す

●寄書

●女報

小公子

女學雜誌に其あらましを掲げ、いさゝか兒籃の慰さめとなしける小公子は、はしなく多くの愛讀者を得て、賞贊の評判一と方ならず、譯文はたとひ瓦の如くとも、原文の玉其間にきらめけばなるべし、讀者の好意謝しまつるに辭ばなしと感謝せるものを、こは雜誌のまゝにて埋むるは惜し、是非に綴ぢて讀むものにせよ、吾等が愛子の重寶とせん、吾等が知り人何某々等の母に贈らん、是非にと促がさるゝ向亦多し、望の外の勵ましに依り、遂に譯文を更に磨き、原本の密畫を其まゝに寫し插み、製本を丈夫にし、躰裁を美しくし、お子供衆の讀物、子を持ち玉ふ母御の重寶として、些さか其御需めに應ずる丈けのものとはなしぬ。かくて漸やく出來上りたれば

去十一月十日より發賣す

大本紙數二百八十頁
密畫七面附圖七箇入

正價三十八錢ぅり
郵税一册に付八錢

或人は言ひ玉へり、小公子を讀むうちは、年長けながら幼あがへりし、無邪氣の其上に反りて暫し天國に遊びたる心地せりと。果して然らんには、此書は亦大人の方の讀物ともなるべし。又或人は言ひ玉へり、生れ付きむくつけく、情けと云ふとを僞りと思ひ、世の中はたゞ利慾と不人情にて滿ち、人は信じまじきものと思ひたるが、小公子を讀てより初めて眞の愛と云ふものを知れりと、果して然らんには、此書たゞ少年の讀物たるのみにもあらじ。英國にて小公子を演戲にしたるに看客戲場に溢れ數十日引も切らず其書は數十回改版して今尚休まずとぞ、彼地にては近頃尤名ある讀物の一なれば、我國にても亦同じきほどの好遇を受よかしと、原著者の爲に祈るになん。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第二百九十五號 明治二十四年十二月十二日發兌

社説

○年暮迫るの感

天變の警戒甚はだ鮮新あり。年將に暮れんとして、吾人に回省を促がす。冬寒く雪大ひに至らんとす、震災地、家なく、寧なき族の困苦そも〳〵幾干ぞ。我家破れたるにあらず、我室寒きにあらず、左れど、座上に居て猶ほ氷中に入るの心地す。粟として心を冷やすの感あり。あゝ吾等何すれものぞ。逸居して義に進まず、暖衣して道に勇まずば、生たりと云ふと雖ども死せるに均し。家ありと云ふと雖ども、何をもて嚴そかなる天地間に住ひするに堪へん。奮然として心を決す。人の一生はたゞ善を爲すにあるのみ。同胞よ！、共に約して、邦家大道の爲に猛く進み勇み勵まん哉。

○廢娼論の勢力

廢娼論の勢力は年毎に加わり、到る所ろ破竹の刃を迎ふるが如し。殊に注目すべきは、前年妓樓を公置せず、近年奇怪なる情實によりて之を新設したる地方に於て、廢娼の論取分け激烈あるの快事にあり。以て、公娼存置の毒害の極めて恐るべきものあるを覺るべし。

人は習慣に死す。邪惡の事も之に慣るれば、其道念を消すと多し。多年妓樓を公置して、姦淫の横行に慣れたるものは、久しふして其害毒に熟し、遂に之を覺らず。たゞ、新規に生じ來る所ろのものあるに及んで、初めて驚異す。例せば、内地の公娼に掛念せずして、少數の出稼女あるに仰天するが如し。是れ習慣中に沒死したる暗愚者の夢破れたる耳。

故に、近年公娼を設置したる地方に起る廢娼論は、特に注意すべき價値ありとす。その害毒は、他の長年公娼ある地にも亦た年來横行するものなりと云へど、其地の民慣れて之を覺らず、たゞ新地新經驗の人、明らかに之を識認したるとを證す。習慣に死せるの人、もし生きて活眼を開かば、亦よく明〻地に公娼の大害を認識するとを得べしとは敎ゆ。

凡俗の存娼論は、公娼を滅するのち、密賣淫娼殖すべしと云ふにあり。此論の誤れるとは、吾人夙に之を破し、今や餘蘊なし。左れど、新たに公娼を許したる地方に於て、公娼存置后

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

初めて、密賣淫增殖し、風儀初めて壞亂し、惡病大ひに蔓延するの實例を見ば、頑迷なる存娼論者も必らずや開悟せずんばあらず。故に、公娼新置の地方に於ける廢娼論は、殊に注目すべし。

岐阜縣は近年新たに公娼を置きぬ。以來風儀頓に惡しく、密淫者大ひに增加し、邪病夥たゞしく殖えぬ。其實證は縣の前書記官が明言する所ろたりき。又た之が爲めに同縣下の廢娼論は尤とも激烈なり。本年の同縣々會は必らずや公娼全廢を可決すべし、其議員の大過半は大率ね皆ね之を約したりしに、不幸、非常の震災あり、議員中の主なる人、誤つて民の爲に入牢しぬ、縣會未だ此に論及するに至らず。

左れど、鹿兒島縣は、本年斷然廢娼に可決したり。同縣は近年に至り、初めて公娼を置きたり。而して其以來害毒の大ひに行わるゝを實驗し、本年遂に如此く斷決したり。卽はち、去月二十六日の同縣々會は、二十番議員手塚道氏が發議により、二名に對する三十三名の大多數を以て廢娼に決しぬ。然るに三十八番與田氏は建議者に優るの斷行策を執り、二十五年度中に全廢すべしと主張し、十一名の賛成者あり、建議者及十四番平田氏等の三年延期の說は、二十一名の賛成者を以て之に可決しぬ。左れど、同縣下に於ける廢娼論の、何如に熾んなるかは、之を以て推知するを得べし。鹿島新聞は云く、縣知事は縣會の建議を受けし曉には、之に對して何如なる所置を爲さるゝか、近來縣下に於ける廢娼論の熱度は中々昇騰し居るが如くなれば、縣知事も縣下の輿論を容れて斷然妓樓を廢止せらるゝならん、而して余輩は縣知事が區々たる情實の爲に束縛せられずして、一大英斷を施こされん事を切望すと。

會津地方從來公娼なかりき、維新以來初めて之を公許しぬ。而して福嶋縣會は、亦た本年に於て大多數を以て公娼全廢を可決したり。卽ち同縣會は、本月三日議員外の各郡有志者より建議したる七通の廢娼建議書を朗讀し、且つ鈴木、比佐、生江の三議員より建議したる廢娼案により、十名に對する三十二名の大多數を以て之を可決し、曁ぼ二十五年度より直ちに全廢するとに定めたり。福嶋新聞は云く、議員諸氏は何れも道德堅固、明眼卓識なればこそ、數百の貸坐敷營業及娼妓營業に關する重大の問題を僅か三四十分に議決せしなるべしと」

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

此他、千葉縣、長野縣、宮城縣、の如き現に其の討議中なり。抑そも、廢娼の處理は一に地方長官の掌中に任じ、中央政府は、明治五年以來明らかに廢娼の政針を定めたり、故に、各地の廢娼論者鋭意拮据して其地方の民心を喚起し、以て、此の極醜の大怪物を速かに退治せずんばある可らず。其行はるると否とは、各地方個々の景勢如何によるのみ。各地方分々の社會改良策中、之を斷行する手續の易々たるよ、蓋し如此きはあらざるなり。

○三重縣尋常師範學校

咄々怪事として、前々號の女學雜誌に掲載したる三重縣尋常師範學校の教師及生徒が醜行有無の件は、吾人が調査及び信用する限り、教師には斷じて不都合の事なかりし由を確知しぬ。之れ切めてもの祝すべき事なり。生徒は果して如何ん、縣會議員今之を調査中なりと承はる。何れにせよ、社會の頁心近頃ろ漸やく發揮し、公眼が人を警戒するの勢力近次增加し來るは、喜ぶべきの吉兆なりとす。

○奇怪の廣告

近頃ろ一二の小新聞に、二號活字を以て「妾」と題し、奇怪の募集を為すものなり。嚴密なる今の內務大臣が取締中、か丶る醜事の公けに現はる丶は何事ぞ。社員之を取調べたるに、廣告者は、日本授產館の大野某なりと知りぬ。社會の制裁は如此き卑劣漢を擯斥し去らずんばある可らず。

○震災地廢娼手段

震災地の寡婦孤女は、廢娼論者の手を以て、急を救ひ、魔人の羂に陷るとを防ぎ止めぬ。左れど、其善后の策を講ぜずんばある可らず。大須賀君の孤女院、府下二三の女學校、橫濱婦人慈善會等、その孤女の幾干を擔當せんとす。寡婦の爲に產を授くるの策は甚はだ難し、佐々木矢榮郎君は、一と度び上京し、府下廢娼家の決議を經て再たび彼地に趣むきたり。吾黨が此事に盡力するの方法、希はくは成就し、一人にても多く之を救ひ得るに至らんとを、涙を以て祈禱す。

○尾濃に於ける救濟及傳道

名古屋及岐阜に於ける基督教徒救濟會の兄姉が盡力は、數へ盡すと能はず。而して大垣に於ける、各地の青年及震地傳道隊の諸君が盡力も亦一と方ならず。此回震災に對する基督教徒の運動は殆んど遺憾なし。彼地方の縣官有志者皆な之を認

め切に感謝し、府下の新聞紙亦連りに唱傳す。吾人は、基督教徒團體の有爲力斯く勃々たるに慶賀す。而して、大垣にある同志者は、今后更に事業を三分し、岡山孤兒院の石井小橋兩氏、彼處に出張して孤兒院を設立し、以て孤兒養育を擔當し、大坂青年會の宮川、宮崎氏等は專ぱら貧民救濟に當り、府下の廢娼論者は、全國廢娼同盟會の援助を以て、旨と廢娼の事業を執らんとす。而して震地傳道隊の兄姉は、此三を共に助け、之に同道補添して個人的の傳道に從事し、特に看病治療の部門に當らんとす。甚はだ可なり尤とも喜こぶべし。

○教徒の非傳道

震地傳道隊に向つて樣々の批評あり。或は云く、何早し、一二ヶ月を待つべしと、而して一ヶ月は既に盡んとす、論者速かに準備せざる可らず。或は云く、此時機に當りて傳道するは權策に似たりと、かゝる人は眞理を見て何ものとなす、果して眞理は万物に優れりとするか、何をもて、之を與ふるに狐疑する。或は云く、此際傳道するは憫然なりと、あゝ斯る人の傳道とは抑も何事を謂ふぞ。

兒籃

小公子

第十四回（甲）

若松しづ子

フォントルロイ殿一條で、ドリンコート城に騷動が起ると共に英國新聞は探訪の屆く丈詳細に書き立て、間もなく米國新聞にも傳說致ました。此一件は中々輕く看過す可からざる程面白味のある新聞种でしたから、世評がとり〴〵に騷がしいとでした。それ耳か、諸新聞に出た雜報が區〳〵に異つて居て、一々買ひ集めて傳說の比較をしたら、餘程の興味有うと思われる樣でした。ホ氏などは、氣が煩亂するまであらゆる雜報を讀み盡し升た。一ッの新聞には、セドリックを乳呑子の如くに申し、モ一ッは、オックスフォルド大學に於て、才學の聞え高く、ギリキ語の詩作で、名の現われた壯年の如くに書き立て、外の一ッは「さる、華族の令嬢と結婚の約束が宛かも調ふた折から」などゝ訛傳し、又モ一ッは、最早結婚の式を擧られたと述べ升た。併し、チャレ頭で、躰格の屈強な、七才と入

才の間の小息子といふ實際をいふものは一ッも有りませんかつた。それ耳か、一ッの新聞には、先にフォントルロイと名乘り出たものは、ドリンコート侯には一向閑係のないもので、米國まで儲嗣を尋ねに送られた代言人をば其お袋が瞞着し遂せたまでは、ニユーヨークの市中をごろついた不憫漢だと申傳へ升た。それから又新らしいフォントルロイと其母との傳説になり升た。一説は其お袋をチップセと言つて、隊を組み人の物を掠などして、覺束ぬ日を送る舶來乞食の中間とし、又一説には女俳優とあり、又た一説には美貌あるイスパニヤ婦人と有り升た。併し、ドリンコート侯が之を敵視して、力の有らん限り、攻撃し、搏へて其息子を儲嗣と認められぬといふ一事丈に於ては、諸新聞が同説の樣でした。それで、其婦人が所持した證據物書類に聊か不審の廉が有つて、此度法廷へ持ち出されるに付ては、裁判は余程長引で有らふ、又これまでにない面白い事件で有らふといふ評判でした。ホ氏は頭惱に取止のなくなるまで新聞を讀みつゞけ、日が暮れゝば、チックと其話をスッカリし直しました。さうする中には、ドリンコート侯といへば、どの位の格のあるもの、財産はどの位有つて、所有地は幾ケ所、現在住居される、城郭がどれ程壯麗といふヿなどを追々と知り始め升た。そして、詳細が分れば分るほど、兩人が氣を揉み出しました。そこで、ホ氏が

ナア、さうじやねへか、おいらみた樣に侯爵でねいッチ、そんな大した物をムザ〳〵人にせしめられてたまる者かナア。

併し實際何と言も、自分たちが助立のし樣もなさに、たゞ二人して音信を通じて、友誼の變らぬヿと、同感の情とを申送り升た。彼の報を得るや否や、早速其手紙を認て、互に見せ合ひ升た。チックの手紙をホ氏の讀んだのは、左の通りでした。

ホップス旦那のとこへもわしところへもおめへの手紙がとゞひた。おめへも運のまわり合せがわりくなつて氣の毒だ。なんでもしつかりふんばつてゐねい。人にいゝかげんのとされちやいけねい。よつぽどふんどし堅くメてゐねいと、どろぼう根性のものにいゝようにされるぞ。かふいふのもおめへがこつちに居るじぶん恩になつたヿを忘れねいからだ。だから外にしかたがなけりやこつちへ來てわしといつしよにやるがいゝ。この頃は大分繁昌してる、それでおれがおめへの世話して困らねいやうにしてやるワ。どんなやろ

うが來たつてわしが居れば大丈夫だ。とんどはこれ丈にして置かふ。

チックより

ホ氏の手紙で、チックが讀んだのはかふいふのでした。

御書狀拜見容易ならぬ一條で御座候と奉存候何でも拵へごとで仕組んだ奴は其儘にしては置けあいと奉存候二ヶ條の申進じ奉候私もチット此事一ッ調べ申し奉候事貴殿内々にして置て被下候其内私代言人と相談いたし候て盡力いたし奉り候そこで甘く行かず侯爵のやつらにまけ候はゞ貴殿成長被成候上萬やの株半分差上奉る可く候私貴殿を引取り世話奉り申す可く候也

再拜頓首

サイラス、ホップス拜

それでホ氏が

おれが侯爵にならねいつて、かふして置きや、二人で差支のねい様に世話が出來るワナ。

スルト、チックが、

さうとも。わしはどこまでも加勢する氣なんです。あんな好いた様な子はなかつたから。

其翌朝チックの花主の一人が慈いたとが有升た。此花主といふは、開業した計りの若代言人で、若代言人の例として、極く金はないのでしたが、怜悧、活潑な若者で、鋭敏で、氣質も優しい方でした。丁度チックの店を出す側に見すぼらしい事務所を持つて居て、チックが毎朝、其靴を磨き升た。其靴といふのも折ふし水の通らない限でも有ませんかつたが、チックにいつも深切に言をかけるか、冗談を云かして行き升た。其朝臺の上へ足を載せる時に、手に一枚の新聞紙を持つてゐ升た。其新聞紙といふは、近頃大景氣のあるので、人物や、物品の插畫もあり升た。今丁度それを讀み通したと見へ、兩方の靴も軈て磨き終るのを待てチックに是を渡し、

ソレ、新聞を遣ろう。おまへ朝飯を食ひに行く時分見るが好いぜ。英國の城の圖も、侯爵華族の嫁様の畫像もあるぞ。これ一人で、中々ゑらい騷動を起したんだが、頭髮なんどの澤山ある立派な女だワ。おまへも貴族華族もいくらか知つて居ないといけないよ。先づ畏くも、ドリンコート侯爵さまとフオントルロイ令夫人にお近づきするが好い、(と言つてチックの樣子振りに氣がつき)イヤー、これはしたりどふしたんだ?。

小説

枯尾花

其下

ひさお

刺多き鬼薊の露にしほるゝは異草よりも憐ふかゝるものなり、多年の心の角折れて、今ぞ本心に立歸りぬと見えし繼母の有樣に、人一人助してこゝちしてうれしく、何といふ心當りはなかりしかど、又翌日の中に調せんとて、繼母を送りかへしつ、されど夫にかたらはんにも其夜歸り給はねば徒に思ひ明かして、翌日になりてよりは、靜心なく歸宅さるゝを待ふけしに、夕方歸り給ひて我手に渡されしものありぬ、おもへば、此日は年俸の渡るべき日なりしなり、夫は我手にそを渡され其中よりいくらか持て、又いづくへか出行かれぬ、待かまへしに何となく心亂れ、いひおくれて今はかひなく成ぬ、日の暮るゝ頃繼母はきたられて、首尾はいかにありしか、貸主は我家に待うけてあり、とく／＼と手をさし出さるゝは昨日罪を悔給ひし景色にも似ざりしを、その折はさりともおもはず、せかるゝまゝに心ともなく夫の渡されし年俸の中より二百圓かして渡せば、禮もそこ／＼に歸り去られぬ、殘り少なく成し年俸の銀金かぞへてみつゝ、夫に何といひ出ん姑君に先いひて、姑君より夫に我罪を乞、取なしをたのみまつらんかなど思ふ中に、夜更け行て御歸りといふ聲耳の鼓膜にいつよりも鳴響きぬ、夫は例の酒氣紛々たるに、最前の年俸出せといはる、あなやと思ふ心おし沈め、今頃、何しにさるもの見給ふに、及ぶべき、とく寢給へといへば、否々今夜は非常の失敗にて、某に數多の借をものしぬ、直にかへさずは我顔立難しとていらだちいはるゝに、詮方なく、姑君にいはんか、又は今夫にいはん方よきかと、用簞笥の前にたぢろく妾をつきのけ、手づから引明け、取出て中なるは、いかにしつるといはる、一度は何心なくしらずといひしが、其儘にて、事終るべきにもあらず、遂には事のもとを、いひ説つるも、醉たる耳に聞かるべくもあらず、ましてや此頃あしき遊びに心かたむけ、いつしか何とやらいふ藝妓の美しきを根引して、我家近きに置き妾には秘さるゝとにもあらず、又顯はにさるゝとにもあらず、過さるゝに、妾も知にもあらず、知ぬにもあらず、もてなしながら、憖に敎育されし身のつらき事共堪へがたくて、それ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

となく、おもてを正していさめまうせしが心に逆ひしなど、何となく夫のおもしろからず、おもはれし折なれば、いたくも腹立給ひて、さる盗みする女は妻としては、我家へ一夜も、おきがたし出で行け出で去ねとて姑君の御部屋より出きたり給ひて、取なし給ふをも聞かれず、姑君は、先とにもかくにも、一夜は心すゝまぬ我家なりとも歸りて折をまて、後にてよきに計らはんといひ給ふを、たのみとして、夫の酒氣のさむる迄、先我家へ行き翌日繼母と共に連立てことのもとをも、かたりてんとて、其夜十一時頃、車にのりて我家へ行つるに、我家は堅く戸閉していかにしてもあかず、隣れる家をうちたゝき起して問ば、寐おぼれたる老婆起出きたりて、和どのゝ家をたづね給ふにか、彼方は昨日の夕方金儲けしつとて酒もりに呼ばれしが、今朝ははやくに遠國へとて又金儲に掛御ともに出立れぬ、と老女の癖とて委敷かたり聞こゆるに、ひたとあきれはて、戸口に志ばし佇みしも、老婆は早又戸をしめ、音もなく、大きやかなる犬の我影見とめて吠る聲すさまじく夜風身にしみておもへばくいかに成行我身ならんかと此時ぞはじめて思ひしりぬる、さてもえあらねば其夜はかの校長の家に行、かいつまみて咄しゝ後、其夜より二三日をそこに過しぬ姑君の便りを待佗つゝ我家の有樣をも告申せしに、七日程ありて、姑君より御文來たりぬ、嗚呼妾が命はこの御文にてさだめられしなり、たのみある世に一すぢのたのみをかけんは姑君なりつれど、姑君のとりなし給ひしをも聞かで、夫は早妾が代りと成ぬべき妻をむかへられぬ、そはかの妾がなほさりに捨置し妾宅の藝妓なり、姑君もいたく腹立たれ、今は我をも離別して露子と共におけと迄の給ひしもかひなかりき、それもこれも皆この姑か我子の教育よろしからさりし故なり、恨みは姑が上にうくると思へば心くるしなど書おくり給ひぬ、御文卷かへし卷かへし幾度も見し末、妾が渇て無心に學びに耽けりし二階の窓に身をよせて、我家の方をみれば、月の光皎々と更わたり、空には星も稀に家々の瓦夜露にかゝやき、霜氣肌を冒す、いつくにやあらん、寐られぬまゝのすさひにうたふ謠曲の聲は夫か宵々に口ならされし安達か原なり、實にこのよは鬼のこもれる所なり、妾は幼きより鬼の如き人に苦しめられ・姑も亦これより鬼の如き嫁にいかなる苦しみを見給ふらん、妾が拙なきによりてか夫はいつしか行狀

あしく成行て、不義の利を貪り、一時の快樂に人倫の道を忘れ給ふ、げに人の心ほどたのみがたくおそろしきはなし、さるたのみがたくおそろしき世の中なるにこの家とていつ迄とゝまりおる事能はず、今更に誰に身をよせ、誰人にうきを訴へん、いでや恥かゝやかして此世たのまれず、人心おそろしきにながらへんより、たのまれぬ世中にただ一ッのたのみある死といふ道に出立ん、現在すらかく、いすかの嘴と成行をまして未來の地獄も極樂もたのまるべきにあらねど、實母の片身の劒に我喉貫ぬきて此かなしみを忘れんとおもひさだめぬ、この月の光りをしるべにこの家をぬけ出、父母の御墓を左右に坐をしめ、茅萱枯ふし、枯尾花茂れる邊り誰一人弔りくるゝ人もなき、妾が枯骨、雨風に曝されて年經んをわなめとだにも得こそはいはじ。

鈴木弘恭大人講

百人一首講義　（上 卅五錢　下 廿八錢）

（年暮年頭の遺物に宜し）

雜録

關原

雲峯生

兩軍成敗の决、豈史上一時の出來事となし、雲烟と共に輕視すべけんや、後世萬代の文野分るゝの機、蒼生億兆の安否の定るの時、宜しく當時を追想して推考すべきなり、余屢濃尾の間を往來し、所謂關原なる所を過ぎ、感慨實に盡き難きを覺えぬ、嗚呼英雄沒して白骨空しく堆し、寃魂迷ふて曠野寂々たり、誠に是皇國のウヲタールー、此地の大戰は大に我國の命運に關するものありき、奈翁一戰ウ將軍の爲めに敗れずんば今日歐國の形勢大に同じからざるべし、西軍若し勝たば日本の今日は如何、古今の興亡を究むる人、宜しく推考すべきなり、即ち推考せば大に感慨に堪ゆべからざらん、今夏尾陽の友を訪ひ、西して濃州に遊べる時一詩以て感を述べしあり、記して投ず、

一　野中の松の　木下蔭に
　　我は暫しと　休らひぬ
　　昔をしのぶ　程こそ有

二　怪かる樣の　老人は
　　此世に住ん　者ならじ
　　我問ふ聲に　應へして

一人の老ぞ見えにける　いと精にも語りけり

＊　＊　＊　＊

三
枚をふくみて　ひそかによする
東西の勢　二十餘万
野嵐たかく　さはぐなり
まだ夜はふかき　關が原

四
羽音亂るゝ　天つかりがね
高く聞ゆる　駒のいなゝき
咫尺も分かず　立つ霧ふかし
夜は明け渡る　關が原

五
丘の嶺々　旗うちなびき
野末のはても　川のほとりも
武士ならぬ　くまなかりけり
霧はれ渡る　關が原
石田、脇坂　大谷、戸田
小西、小早川　毛利、長束
何れ劣らぬ　猛き武將
大坂勢を　將いけるかな

七
東の武將が　のりける駒の
足音たかし　桃配山
從ふつはもの　心を合せ
號令まちつ　ひかへける哉

八
原野とゞろく　陣鐘、太鼓
電雷くづる　矢さけび、石火矢
亂るゝ人は　くもかすみか
蹴たつる砂礫は　雨かあられか

九
ひゞきは絶えぬ　矢玉つきぬ
刃は折れて　生死極りぬ
積れる屍　丘より推し
流るゝ血汐　川より深し

十
鳥のなく音も　聞えずなりぬ
野面にみつる　殺氣ぞすごし
日かげは寒く　旆旗はかれぬ
月かなしみて　おく霜しろし

十一
たゆるひまなし　鬼神のさけび
消ゆる時なし　靈魂のうらみ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

毛利、小早川　悪き逆賊
大事を敗りぬ　嗚呼、噫嘻

⊠　⊠　⊠　⊠　⊠

十二　頭をあげて　ながむれば　ありし昔にさけぶらん
淋しき野原　人もなし　松の聲のみおとづれぬ

松岡小鶴女が南望篇の自序

井上通泰

聞く、中川生さいつころ我祖母ある松岡小鶴女の傳をものして女學雜誌に出しぬと、我いまだこれを見ずといへども、生は我家の事を熟知せれば、いたき誤はなかるべし、こたび巖本ぬしより彼嫗のものせし南望篇の自序をと誂へおこせたまふを、いなみもあへず寫して參らするには、我佛尊き方も打交るなり。

余禀受薄弱、年十三偶遇疾病、遂不全愈、以至十六七歳、疾益加、其證四肢倦怠、心下痞悶、或冒眩、或健忘、心志昏迷、思慮鬱結、無所不至、對人敘寒暖、猶且不能焉、大自憂之、且自愧、鬱々潜伏、潜伏愈鬱、常不見人者七八年、灸藥不奏功、中止服藥、及過嫁期、其疾自失者十居七、然諸證不全除、心身猶多所苦、偶對卷帙、昏倦不堪久讀、對人臨事之際、或惘然失序、遂不能爲全人、自以爲終身之痛恨、家君生一男二女、兄殤、父母不癈此多病生、遂迎新人、配余以爲嗣、後督家事、生一男、名曰文、阿妹嫁人、生一子、後遂夭、其子亦殤、家君之於我良人、雖無一相口角、而其性大不相合、余亦與良人志風不適、余雖竊恨之、自以爲婦之於良人、一與之齊、終不可改者、如意不合則命也、以從事者八年、中間母氏已歿、家君一朝有所憤激、無一言之及余、自決意逐良人、時文甫七歳、良人自責、托書於余以懇請宥之、余奉其書、以陳良人之意志、家君斷然遂不顧、方此時也、余如反覆號泣求之、則家君憐其情志、或能赦之、余不能至此者、實由有所狹、嗚呼、夫婦者義當偕老同穴、死生相與、詩曰、髧彼兩髦、實維我儀、之死矢靡他、如余者可謂悖矣、是余之一巨罪也、每一念至此、未嘗不深自責、別良人之後、余請家君曰、夫子老矣、不肖不見二夫、則箕裘一旦將廢、夫子能使不肖盈蚓操、則他年若有不可諱之事、不肖必自執刀圭、不廢世業、且教育遺孫文、令以繼乃祖、家君許之、自扶衰老、再執家業、遂歿於世務之勞、時文甫九歳、追想奉雙親之日、家尚貧、給乏恐不贍、身常病、懶惰憚勤勞、以此二者、方其侍病供養也、內省實有自愧者、加以余性不篤、三年之喪、不能盡哭泣之哀、求之聖經、如余者謂之何哉、是亦余之一巨罪也、每一念至此、未嘗不慨歎、家君歿之後、余常恐負前言、夙夜不忘、弱質自强、開張心志、務探諸家之書籍、及家君靈心表之家集、聊求醫事、躬自備問鄉里之疾病、以徵存世業、且日孜々教育兒文、繼家君以授句讀、教書字、或時風諭人道者三年有奇、嗚呼、余既抱二巨罪、不能順於親、不能信於夫、倘何恃區々之諒哉、孟子曰、不能三年之喪、而緦小功之察、放飯流歠、而問無齒決、是之謂不知務、如余者豈能免哉、豈能免哉、今茲甲辰文甫十三、似良可教者二月中旬、命使南從師於安田村、余已煢々孤寡、唯有兒文在而已、文雖幼、似有可與談雅趣者、余常樂之、然而今又與文相隔離、且稀地僻、魚雁數絶、於是乎心

志無所訴、鬱悶此胸、相思無限、文在安田村半歳、托幽情於野詩、布丹心於兼牘、以寄之者數篇、文之成業稍有年所、預知今而後所寄者、亦當成若干篇、余固不敏、且早嬰病、及其少瘉也、象設塵務牽纒、未嘗學文辭、唯家君授弟子之餘音、與平日之雅談、耿々于耳底而已、何足其文之可否哉、唯以筆代舌耳、雖然文成長之後或追想今日、更閲之、則察阿母於子之情、庶乎爲恕人之一助矣、乃作小舟錄之、題曰南望篇、後之文詩將隨錄之、因悉記平素之事情、以爲之序云、天保甲辰陽月、松岡小鶴序

此時祖母四十歳なり、南望篇の本文は後に出さんとりある べし、事の序に詩集歌集の中より志の見えたる一つ二つを擧げん

ふみの端に書しるせし
つかへよとつゆ頼むべき我かはと
おもへど人を玉にせまほし

わられ餅を送りやるとて
玉わられ其つぶさにはいはねども
我いましめの數ぞとを見よ

丁未之秋、兒文年甫十六、來敎講書於君前、寄以二詩、次韻却寄
孤影蕭々唯自寛、多年期汝若儲冠、亡翁幽魄作親望、莫作群兒一樣看

家政

胎教

山下石翁

列女傳に云く、古は婦人子を妊みては寝るに側たゝず坐るに邊よらず立に蹕せず目に邪色を視ず耳に淫聲を聞ず夜は瞽をして詩を誦し正事を道はしむ如此すれば則はち生るゝ子形容端正にして才人に過ぐと。

子が胎内にあるときは猶ほ母が一身に繋がれる五躰の一の如し、五躰は全身の氣によりて影響せられ、全身は一心の何如によりて感化せらるゝとを思ふに於ては、母が胎内に其子を懐けるとき、その身及心の上よりして之に影響感化を與ふるとの多きは勿論なり。

身躰上の胎敎

心によりて肉躰を制するとを得、猛烈なる精神を以て病死を防ぎとめたるもの少しとせず、ネルソン已に死せり、然れども其精神尙盡きず心臟鼓動殆んど絶するとき尙生きて最后の戰捷の報を聞き則ち眠りぬ、彼は其精神を以て身躰を繋ぎたるなり、昔しスロクラと云へる病ありしに王之に觸るれば忽まち療へぬ王の威光よく其病を制せしなり、之によりて一にキングス、イビル、と名けたりき、美なるマリエ、アントイネッテの髮毛暫時に白くなり、千字文の著者一夜にして白髮となりぬ、此等は皆精神が肉躰に及ぼす影響なり。夫れ精神

已に肉躰の上に此の如き大影響を及ぼすとせば、母の精神氣質は、其肉躰の一部分ともいふべき胎内の子の上に影響せざらんや、實に躰兒の身躰は、母が精神氣質によりて大に變化するなり。

ニウヨークのプロフヘッサー、ハチモンド曰く、某邦の或る妻、懷胎三ヶ月の時、良人顏に傷け流血淋漓たる慘まじき形をもて或夜歸りしかば、かの妻驚倒絶息したり。この時余は之を診し且つ其后も治療せしが、妻は絶へず其子に何事かなかれよと案じたるに后ち女兒を生むに至り、其面てに黒紅色の斑點ありき。而して其位地、其大さ宛然彼の良人の顏に傷したるときの狀にてありき」と。

ニウヨークのプロフヘッサー、ダルトン曰く、此都の醫學校の門番の妻或る夜一の耳を失しなひたる人の事を夢み太だ强く之に感動せしが後に子を生むに至り其子の耳一端を欠き宛から殺ぎたる如くなりしと。

此他かゝる例甚だ多し、或女は手掌なき乞食が物を乞へるを見棄てゝ後ち之を助けざりし事を深痛し遂に手掌なき子を生みたり、(プロフヘッサー、レ井ス、スミスの說)ルイ十四世の妻マクエ、セレサは之に仕ゆる黒奴頓に出で衣服に足をかけて倒れたるに驚き遂に黒き王子を生み、或る母時計のとを切に考へしに其子の顏に時計の形あり〳〵と現はれたり(デマンゲヲン氏の說)如此き實例多く、ドクトル、ナフユー氏の、フビジカル、ライフ、ヲフ、ウーマン、百八十一頁以下にあり。

此等の實例によりて已に明なるが如く母の精神の如何んは其胎兒の身躰の上に非常の影響を及ぼす、母もし神經質ならば幾度が胎兒を驚かせて其未だ生れざるに於て已に早く之を弱くせしむべし、グリーキの婦人美ある像を寢室に据え、その胎子を美にせんとしたり、然れども躰貌の美なるのみにはあらず壯健々康の子は必ずや信切なる胎敎の結果あらずんばあらず、他日敎育學上躰育の行なはるゝと否とは巳に此時に存す。

心靈上の胎敎

其感じ易きとを言はゞ身躰は心には及ばず。胎兒の胎内に存するや全身之れ肉の如く、全肉これ心の如し、心と肉とは分つと甚だ明ならずと云へども、然れどもその所謂心なるものは即はちその肉躰中の尤も銳敏なる尤も靈活なる所なり、母の精神已に胎兒の身躰の上に影響せば、何をもて更に感じ易き

胎兒の心の上に影響する所なからんや。

我は是れ主の使女なり爾の言へる如く我に應かし、とて信心の情潔よき乙女よく「クリスト」を胎内に宿してそのいと潔き彼の心の上に汚れざる感化を通ずるを得たるなり。又エリサベツ、マリアの話を聞きて心喜き胎兒腹の内にて跳れるほどに喜びたり。この二人の高潔なる婦人三月の間だ共に住ひ神の恵を讃む聖歌を歌ひ一身を獻げて胎内の潔き子を守り養ひたり。夫れザカリアはヨハネを胎み、マリアはクリストを孕らむ。彼等みな其生子の前途を豫知し、腹中に神の子を宿して其聞ゆる所ろ高かなりしと、抑そもいかに聖なりしぞ。我等今より之を推察し如此き婦人あるによりて則はちヨハネ、クリストは天の命に服へるものゝ最も清き姿にて生れ出でたりと云ふ。美術家フラックスマン氏の母は、氏を生む前數ヶ月日々彫刻を學び深く美術上の思想を養ひたり、故に言へらく其子の天才は胎教に成れりと。昔し日輪懷中に入ると夢み太閤秀吉の足跡を踏めりと夢みて遂に偉人豪傑を生むに至れるなど母が生平深く心中に偉人豪傑を慕ひたる結果ならずんばあらず、胎教の重んずべきと之によりて明なり。

文學

俳諧師の妻　加賀の千代

千代女久しく、歌道に入り、眞に歌の心を得たり。朝に起きて夙く水を汲み、夜はに晩く寝ねて蚊帳を吊す。凡そ風流は勤勉の間だに生ずとこそ言ふべけれ。彼の懶漫として恒の業なく、遊々として天地の内に空しく日を消するものは、眞との風流を知る人にあらず、眞の風流とは眞の美なり。眞の美とは、善と眞とに伴なわずんばある可らず。千代女の所云る俳諧師なるものに平かならず。嘗て、四民論を草し、其末段に此旨を痛論して云へらく、

四民の外に遊民あり、其妻たり女たる者は、假令へ夫藝能有て、當時の世渡に差支へあらずとも、子孫へ傳ふ可き定れる職分家業無きは、孟子と云へる書に恒の產無しと云ふ者是なり。夫にも勸め申合せて、何なりとも家職を取立て、四民の内に列ならんと願ふべし。自から今ま俳林に在りて遊民を友とすると多し、思ふ所有つて是を誌すと云ふ。

似而非風流の徒、須からく慚死すべし。

佛蘭西小説

誰か佛蘭西の小説はゾラの小説なりと云ふ。佛蘭西にビクトル、ユゴの小説あり。而して佛蘭西人民は實に能くユゴを愛好するの趣味を有するなり。道念高潔にして、情愛の氣全章に滿ち、忠烈、義に憤ふるの眞勇氣一句一字の中に躍る。凡そ如此き小説を愛好するの國民は未だ全く墮落せざる也。

ゾウリエツト、アダム夫人、近頃ろ、佛蘭西近來の小説を論じて、此等は、決して佛蘭西人民の眞生涯を寫すものにあらずと辨じぬ。云く、其作者は、大抵パリに住ひ、パリに心醉し、パリの住民の一小部分を其材料に使用せり。一派の作者は漠然看過して、たゞ皮相の見察を寫すに止まり、一流ゾラの輩は、尤とも下卑たる最下等の人慾を紆きて、之を普通に行わるゝものゝ如くに吹聽す。之を以て、佛國下等の職工といへども、ゾラの小説に肩を聳かして憤怒せざるはなし。作者もしパリの汚れたる都にのみ住ひせず、もし、マーセール、リヨン、ルウエン、リレーの邊りに移りて其光景を觀察したらんには、初めて佛國人民の生涯を寫すとを得んと。今の東京小説も亦幸はひにして斯くあれ。

批評

(109) **和文文章軌範** 一名、婦人文範 （東京富士見町一丁目益友社發行 紙數九十六頁定價拾五錢）

撫象子

岡三慶氏の編輯にして、作者の畧傳を擧げ、文法を示し、難字を和解したり。松下禪尼の文は最上品なれど、其他に收めたるは、文として左程目出度ものにあらず、殊に婦人文範として女性の文を收めんとするに、何故に、源氏、徒然などより一文だに採らざりし乎。文法の講釋何如にも窮屈にして、蓋し賴山陽が一罵すべきものならんかし。

○萩戸の月

武雄

日本新聞社より發兌す。陛下の大御德を尊崇せしめ、座ろに涙禁ずると能はざらしむ。體裁、文辭、双がら美。

○和田垣君の答

井上二郎

女學雜誌第二百八十七號に掲載したる元良勇二郎氏が開書に對し、和田垣謙三氏は、東洋學藝雜誌第百二十二號に於て答辨せり。論辭輕々しく苟くも眞理を愛する人の議論とは思はれず。勝敗は眞理の爲めのみ。徒らに小股を取りて肝要の學

理研究を后にするは、君子の恥づる所にあらずや。

新書百種拾七號　天知子

○離れ鷲（中村花瘦作）

筆健にして簡潔妙快、字句の吟味に丹精現はれ、一句隻語の際に著者の本質と譜上の人と消化せる所見ゆ。剛強の個所に至れば殊に良句を用ひ頗る愉快の武夫を描くに足れり。然れども惜いかな勤むるに失して終に滑稽的武夫に流れゆくの恐れある所往々之れあり、若し此厭ひなくんば大晴樸直剛毅の武夫たるべきものを。此勇健なる筆法は剛強の所を描くに却て過ぎたる誤ありて戀愛の所に至り大に感服する得所現はる、此武夫は終に猛烈らしくして終に『奇男兒』に及ばず、此筆にして此嘆ある惜き事なり。

○朝顔（無名氏）

極めて短篇に失愛絶望の半狂を描く、何等の妙筆ぞ、無名氏とは誰か、思ふに十七號中の秀なり、實際其域に立たずんば此筆なからん、他愛なき所に却て實際の感あり、唯惜いかな一夜に朝顔の莖兩手を摑みて花二三輪咲亂れて顔の一面を穩すといふに至ては奇を好んで僞に陷るの譏あり。

○ばアや（漣山人）

いつもながら得所なる小供の情を寫すこと頗る眞に迫る、姥の眞情なかなかに悲し、幼にして老なる作なり。

○碧流（麗水）

悽絶たる健筆、妙句往々腹を穿つの特所あり、田舍の戀愛を寫して其間に空戀、痴愛、嫉妬、失望等を自然に發起して終に物凄き碧流を描きて浮世を此渦に一呑して呑ましむる所最も妙なり、結末の一章淡々として趣味却て深し。

聚芳十種第七卷　天知子

（上）戀の重荷――三昧道人作

汚濁妓女の戀進みて陋愚娘子の戀現はれ、今は古代武家の戀を描く時となりけん往々にして時代物武家世界の戀愛を見る。然れども作者は依然として思想同じきにや、深川羽織妓女の意氣張を拔きて之れに武家の化粧せしめたるものを描く事多し、武家子女が、特色長所なる凜冽の氣を描くを知らずば先づ筆を措くを宜しとす、然らずは胸悪し。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

余は三昧道人の事を聽く事久し、今此作を見て人違ひなるかを疑えり、意匠趣味なく固より主人公なる初音姫は一城主の娘たる資格なし、其總て陋しく厚面しき所は殆んど戯曲的の筆法を以て町人娘を描きたる如し、然れども辰丸なる一廉士を緊く描かずして相應に能く人物を現はしたる所見どころ深し、姫の言葉の往々愕くべき俗調と成るは文辭上の瑕なり、折々秀麗の句あるは流石三昧の價あり。

(下) 七變化――露伴子作

洒々麗々たる筆法にて戀の重荷を伴ひ出でたる僅かの端物なり、露伴にしては賛めたくなき作なり、然れども例の如く結末に至りて特色の妙あり、且イヤミ氣なき所と鳥渡した所に能く深味ある所面白し、「ア、厭な世の中」に至りて人世僞善的僞者多きを冷罵せし所、いかにも七變化の異氣を吐く所とす。

聚芳十種第六卷　　山月子

いとのみだれ　(柳涙子著)

「いとのみだれ」は四種の短編小説より成る、輕妙の筆といふべし、女夫雛形は洋行歸りの學士官吏と、高等女學校出の女子とが結婚後の家庭の樣を寫す、最高の理想なき夫婦交情の變遷、紙上に躍如たり、結末芝居の番附を拋出す處、讀者をして感慨の情を催さしむ、紫陽花は不心得の娘を主とし、やせ鼠は窃盗の少年を主とす、勸懲の意十分籠れり、實話を讀むが如き心地す、草餅賣に至ては何となく見劣りす、草餅賣の女が書生に語る樣、如何にも輕く如何にも鐵面皮にして、角店の名の知れし人の娘の零落とは思はれず。

○日本評論の基督論

吾が日本評論に、基督論あり、蓋し搖動懷疑せる今の宗敎界に益あらんとを信じ、敢て讀者に薦介す。

○賣國文及盜版權

日本對鄭氏の賣國文事件は今や公判最中なり、何人にてあれ彼の賣國文の作者が世に露はれ來るは、文界の爲め一喜一憂すべし。田口氏對河上氏の日本開化史版權侵害の訴亦た正に熾んなり、田口氏の論礎頗ぶる固きに似たり、可否の速かに黑白を判たん日を待つ。

○女學上の雜誌

貴女之友、及び、いらつめ、既に久しく廢刊せり。

開書

女子高等師範學校の存廢に付、議員諸君に蕪言を呈す

女學雜誌社

肅啓、女子高等師範學校存廢の議に付き、高論樣々の由傳聞、只管敎育上御注意の念信切あることに感佩仕候。依りて社中愚考する所を開陳し、賢慮の一助に呈せんことを欲す。是れ多年女學に關係を有するの微衷に出で敢て不肖を忘るゝの故に候。

女子敎育の大切なる事は、今更申に及ばず、隨つて其根本培養の爲め、女敎師を造成するの必要ある由緣は、殆んど論を須たざる儀に候。今日多忙至重ある衆議院の研究を要するは此等明白の事件に有之間敷、即はち、此の女敎師養成の事務を、政府が擔當せざる可らざる乎、否やの問題に可有之と存候。

政府の本務は、民間私人が成す事を得ざる公務を辨理するにあり。而して平生放任の政向を執り、成べく民人が敢て之を自治することを促がすべきものに有之候處、明治政府の方針此點に向ふやう相見候は可祝儀に候。

然るに不幸にして政府の方針此點に向はずば、政府の保護政策は、偶たま以て民間事業の發達を害し、則はち國運全躰の進步を防障すべし、可歎儀に候。

扨て、高等小學、高等女學校、尋常師範學校ほどの格に敎師たることを得べき女敎員を養成するは、今の民間にて極めて易々たることに有之、現に京濱間の高等なる私立女學校に於ては、夙に一層高等なるほどの學科を敎授致居候。中には女子高等師範學校同樣の目的にて彼の卒業生と資格を同ふすべき女敎師養成に盡力致居候女學校もありと雖ど、只だ政府が年三万圓內外の金を空中より取り、造作なく之を使用せらるゝに比して競爭しがたきことを憂ふるのみに候。

吾社は明治十七年來女子敎育の普及に盡力致居候者に有之、若し女學の益と成るべき者あらば一事にても贊成助力して其發達を祈ること勿論に候へ共、政府にて女子高等師範學校を監理し民間女學の伸張を防害せられ候を見て、邦家及び斯道の爲め安んずることを得ざるものに候。

故に吾社は女子高等師範學校の廢す可き議に同意致居候と雖ども、本年全廢して現に就學中の者を離散せしむるは不可然儀と存候に付、今後の新入學を止め、以後三年にして自から消滅せしめたく存候。

而して本年より直ちに經費を減ぜしむるとは、容易の譯と考候。現任敎頭の外に、校長を要せざるは勿論に候。又た、該校に附屬したる高等女學校は、京濱間第二等の女學校に班するものにて、世上の私立に數多く見る所ろの類たり、本年直ちに全廢すとも、其學生は何處の女學校にも入學し可得候。たゞ民間私立女學校をして、今の高等女子師範學校の現况に適ひ、好く之に代はらしめんには、一二年の準備を要するかと察せられ候に付、新入學を止め、舊學生を養ひ、數年間に官民代謝の都合に致させ度存候。且や、現在の入校生中より、相應の月謝を取立らるべく、又敎員の給料も大學卒業生の割にして一躰高價に候へば、彼此差引及收入して現在の經費を減ずるとは容易の事にて候。

故に、女子高等師範學校は、全廢と定めて、期限を三年后に限り、新入學を止め、以て民間私立女學校發達の地歩を養はしめ、現任校長を罷め、月謝を取立て、敎員給料を減じ、經費二万七千二百二十二圓の中、給料に四千圓を引き、月謝に三千餘圓を收入せば、大畧二万圓にて十分と存候。

此二万圓は苦勞なく空中より握取し以て民間の女學校と競爭するの資に有之、則はち民間私立の女學校を苦しめ其發達を害するものと認めずんばある可らず、此は固く記念覺悟して只だ之を除くとを不得止徐々に致すのみに候。

以上愚見御參考の一助とならば、邦家及び女學の爲め幸甚に候、敬白。

明治二十四年十二月

女子高等師範學校は無月謝無月俸なり。民間私立女學校には、月七圓以上を要す、而も生徒の數反つて多き私立女學校あり。其學料は無論、女子高等師範學校よりは高し。

女學雜誌は明治十七年以來女子敎育の普及に賛成せり、大學に女子を入るゝとをも熱論せり、凡そ民間にて出來ざるとを政府が辨理せらるゝには常に感謝の意を表したり。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

隨感

○近頃の歷史硏究家

漁泉子

近來歷史硏究に新思想を寄せ、多少世人を驚かすに足る評論を爲すものあり。文學上慶すべきの吉事とす。然るに、此流論者の脳中、只だ、貨幣、時勢、など言へる觀念に充ち、先入主となりて、万般を此等一法によりて通解せんとし、附會の理論多くして君子を喜ばすに堪へず。夫れ、富と時勢とは、人世最大の動機たると論ずるを待たず、然れども、世上豈に之よりも更に大なるものなからんや。余は、寧ろ、モーゼが史眼を以て卓越せりと信ず。人類盛衰の最大元因は必らず道德上の意義に關はりを有す、木の實を食ふか食はざるかによりて大懸隔を生ずとの比喩尤とも味はふべきあり。近來史海の流潮に逆らひ、誰か、シユレーゲル、カーライルの道眼を開くものぞ。

○道德と文章

しみぢ

劍を磨く人、劍術を知らず、劍術を知れる者必らずしも劍道を辨まへず。區々文法を論じ、將た細々として文字の末技に局促する輩らは、共に文の道を知らざるもの也。文士は大道を辨まへ、先づ德を涵養せずんばある可らず。德立ち德滿つれば、文章自からにして氣焰なり、光彩万丈の美觀千古に爛せん。苟くも然らずば、たゞ兒童の火技と一般にして了らんのみ。

吾が敬宇翁嘗て此理を論じ、得庵詩文に題して、云へらく、詩文は言語のみ、言語は身意の口に發するのみ。是故に、身口意の三業相應じて而して十善自から全き者は、其詩文善ならざると無し。善ならざると無ければ則はち巧妙ならざると無し。諸を聖賢佛陀の作る所ろに觀て徵す可き也。周公の詩若くは文、善を盡くし美を盡くし、郁々乎として盛んなり。孔子の詩、唯だ泰山梁木の數句を存す、而して易の象傳皆な韻を押す、詩の似き者あり。其文の如きは則はち所云る天の未だ斯文を喪なはざる者、斯文を以て任と爲すは即はち斯道を以て任となすなり。佛陀の長舌を瀾翻する、其善巧を極む、經は則はち其文、偈は則はち其詩也、屈原莊周の大才を以てすと雖ども而も其項背を望むに足らず、洵に千古の鉅觀也。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

寄書

青年書生の將來

蘇溪生

破帽短褐高展敝袴左手に卷を携へ右手にステツキを打ち振り月に吟し花に醉ひ意氣揚々と市中を横行濶歩し口に誇大自草の言を吐く者を見て世俗之を書生と云ふ何ぞその見の謬れるの甚しきや

それ眞の書生と云ふ者は將來廟堂に坐し國是を論し或は全國の蒼生に代り國憲を議し社稷を泰山の安きに置くべき責任を有するものとす耕作を盛にし蠶桑を勉め鑛山に從事し國產を殖し輸入を防ぎ以て國利民福を增進すへき責任を有するものとす遺利を拾ひ廢物を興し無用を轉して有用となし以て財を各國に收むへき責任を有するものとす機を笑微の間に决し商戰を万國の市場に試み以て商權を我國に歸せんとするものも亦書生なり與國に使し國家の榮辱に任する者も亦書生なり海陸の軍備を擴張し以て富國强兵の基を計り外國の凌侮を防き巍然として獨立自由を保持するものも又書生なり凡そ古より功を當世に施し名を竹帛に垂るゝものは嘗て書生の目的にあらさるなし換言すれば書生は國家を運轉する機關なり技師なり叙して此に至れば書生の任重且つ大なるよすや是故に昔人は股に錐し或は螢火に讀み或は雪窓に讀み或は警枕を以てし或は隣光を竊む古今其類尠なからす蓋し前途遙遠として唯之を盡すと能はさらんとを恐るればなり世の書生たるもの豈に難からすや然りと雖も凡そ人世の事業にして世人の目して以て名譽とし光榮とする所のものは皆是れ書生將來の業務なりとす故に一朝螢雪の効を奏し苦學光を顯はすに至れば富貴立所に至り功名忽ち來る書生の境遇亦愉快ならすや

それ一盛一衰一榮一枯一上一下は世上の習復た之れを奈何ともする能はす蓋し青年書生の前に辛苦艱難を甘受する所以のものは成果の完美を他日に期する所以にして猶ほ馥郁たる春花の嘗て雪霜に苦めると等しこれ固より忌避す可きに非すして却て自ら奮て之れに當る可きのみ諺に曰く若ひ時の難儀は買ふてもせよと孟軻氏曰く天の將に大任を是人に降さんとするや必す其心志を苦ましむと西哲曰く艱難汝を玉にすと寔に然り是れ吾人の善頌善規なり

然るに世間此大任を負ひ此光榮を目的とする書生にして徒らに奢侈に流れ酒色に溺れ遊惰を事とし下宿屋樓上に人情小說繙きワイセツ新聞を愛玩し晝寢を貪り曾て其業を勤めす又啻に其業務を怠るのみならず之れか爲に自ら其の身を卑賤劣等の域に陷るゝに至る是れ吾人の遺憾とする所なり尙ほ甚しきに至りては悖亂逆戻破廉恥を顧みすして意氣揚々たるものあり

嗚呼果して何の心ぞや嗚呼果して何の心ぞや抑も書生境遇の何たると將來如何なる責任を有するとを察せさるの致す所なり世の書生たるもの深く此に鑑みて鑑みる所なかるへけんや嗚呼鑑みる所なかるべけんや

問答

可愛子

●明治女學校の速記科のとに付き、横濵るい子様と、田舍さよ子様に御答へ致します。同校の速記科は、一週間毎日三十分間づゝ稽古致しますと、三ヶ月で卒業になります、熟錬しますには、一貼二十枚の駿河半紙に三十貼も習ひますと、大垣の自分用ぐらひは足りますとのとです、五十貼も習ひますと餘程よろしいと申します、月謝は二十五錢で、外に紙代、鉛筆代等にて月二十五錢もあれば十分です、但し食料は別に入ります、同校卒業生の中には學校で教へて居ります人もあり、雜誌社で速記に從事した人もあります。

●問。水滸傳を讀みますと、中に十八般の武藝悉く通ぜすといふとなしと書いた所がありますが、十八般の武藝とは何のとですか。(愛知、綠水生)。●答十八般の武藝と申しまするは、一に弓、二に弩、三に槍、四に刀、五に劍、六に矛、七に盾、八に斧、九に鉞、十に戟、十一に鞭、十二に簡、十三に檛、十四に殳、十五に叉、十六に杷頭、十七に綿繩套索、十八に白打であります。

女報

可愛子編

●大地震に付ての女報(其六)

●皇后陛下御令旨の傳達　畏くも慈仁なる　皇后陛下には、過般尾濃地方の震災罹災患者治療のため、東京慈惠醫院及大日本赤十字社より醫員及看護婦を派出し迅速に施療をなさせ玉ひしが、該醫員看護婦等が熱心に治療又は看護に從事し居る旨聞し召され、至極御滿足に思召るゝ旨、仰出されたるに付き、其御令旨を各醫員及看護婦等に傳達すべき旨、先頃香川皇后大夫より兩縣知事へ通達されたり。

●貴夫人の義捐　三宮夫人勸誘寄贈物品の中へ、榎本子爵夫人は新古衣類六十三品、本所小泉町の伊達式部官夫人は手拭地三十反、公爵三條家よりは衣類三包を出されたり。

●一ッ橋舊高等女學校卒業生の義捐　同卒業生六人發起となり、二十五人の卒業生、心を同うし力を合せて、自らぬひ、若しくはツギなどせし衣服、足袋、其他の物、合して三百六十餘品を、去る十一月初旬、岐阜に在る同窓の一女生に托し、彼の最も震災の甚しく、最も窮民の夥しき根尾谷へ配附するとをなしたり。

●女子神學校一同　は金七圓四十錢を震災地へ　れたり。

●上毛に於ける震災義捐幻燈會　は十一月二十七日、前橋數嶋座に開きたり、飯

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

野吉三郎氏と、眞鍋牧師、岩崎群馬中學校長の演説談話あり、前橋の紳士、令夫人等自ら進んで音樂を奏せり、集會者二十有餘名、官民斯の如くに一致會合せしと、甞て同地に無き由なりといふ、集り金高凡そ七八十圓、物品凡二千有餘品、合して岐阜愛知の有志者に送ることとせり。

●麻布女子授産場の義捐　震災義捐につきては、各女學校いづれも課業を休みても寄附の裁縫等をなすほどなりしが、麻布女子授産場の生徒は之がため、特にハンケチを縫て之が手間料を義捐し、またその食料を節してこれを寄附する等喜こんで慈善の擧に力をつくせしといふ。

●熊本教會よりは　傳道師大島咲子貧傷者を看病の爲め、古着四十餘點を携へ、十一月十六日出發、名古屋清流女學校に赴きたり。

●各婦人會の義捐　高崎教會婦人會より金十圓◎越後長岡基督信徒並婦人會より金七圓十錢三厘◎山梨縣甲府婦人會より金二圓四十五錢◎山梨縣勝沼婦人會より金一圓二十錢、何れも震災地に寄贈せり◎三重縣四日市婦人慈善會はミス、レズナー氏の設立に係るものにして、會員も貳拾名余あり、是迄編物等して其上り高を銀行に預け、慈善の用に供せんが爲めに、貯蓄しありしが、今回岐阜愛知の罹災者を救はんが爲め、去月五日當地旭座に於て慈善幻燈音樂會を催せり、關西鐵道會社長白石直治氏の夫人菊子、駒井とみ子孃ハ小松夫人等は自から入場劵を持て市中戸毎に賣歩かれしにより、人々は其熱心に感ぜしか、暫くの間に多くの切符を賣盡すに至れり、尙夜集りし者無慮千七百名餘、さしも廣き劇場も立錐の地なく尙ほ場外にありて内に入ると不能、空しく歸りたるもの五六百名、實に盛會なりし、而して尙夜集りし金と前の貯金とを合せて三重新聞社へ夫々送付方を依托せし由◎岩手基督教青年會と、森岡婦人矯風會は相合同して、震災救助の爲め去月廿三日午后一時より杜陵館に於て、慈善音樂演說會を開きぬ、會衆は五百人以上にして、該地未曾有の盛會にして收入は廿一圓餘ありたり、六圓計りの支拂を差引き十五圓餘を名古屋基督教徒救濟の事務所へ向け發送したり◎高知基督教婦人會英和女學校生徒は時々集會し、裁縫、書簡袋、其他の物品を製造して其を賣捌き濃尾震災地へ發送すると云ふ、又た基督教徒の設立せる救濟本部は、先年愛知奈良和歌山等水害のありし時も、縣下慈善家より四百餘圓を集め、各水害地へ部員を派出し頒與せしが、今回も金錢衣服等集め之を取纒めて濃尾の震災地へ送らるゝ由にて、目下金錢物品の募集中なり◎長崎活水女學校より女生二名、福岡英和女學校より一名、震害地負傷者看護の爲め出發せり、又全校生徒は當市の婦人達と連合して衣類を集め、震災地に送らんとて奔中なり。

●震地傳道隊　藤井米八郎氏再び震地に向ふ時醫師中村友吉氏同伴せられ今は竹が鼻病院にて治療せらる。佐々木笑受郎氏は去四日一旦歸京し寡婦勞働の途を協議し此度は全國廢娼同盟會委員の格を兼て專ら廢娼上の爲め八日夜再び出發せられたり。

●東京新報の紙上　二號活字を以て新吉原貸座敷男女雇人中と塡め、一々姓名を揭けて、罹災義捐の廣告をなす、小新聞の弊遂に東京新報に傳染す、吾人風俗の頽敗を憂ふる者、豈記者の一考、二考、三考を促さゞるを得んや。

●皇后陛下の行啓　同陛下には去る一日午後二時御出門青山御前へ行啓、同四時五十分還御あらせられたり。

●下賜　皇后陛下、甞て池田邸へ行幸あらせられし節、御上覽ありし娠玉乘に、金二十五圓を下賜せらる。

●皇后陛下の御思召を以て　日本赤十字社京都支部へ、御菓子料として金二十五圓入院患者一同へ下賜せられたり、一同感涙に袖を濡したりといふ。

●東京婦人老年會より　去る十月四日岡山孤兒院へ、綿入六ツ、袷二ツ、綿入半天二ツ、袖ナシ綿入十一、單衣二ツ、襦袢十、帶一筋、足袋五足、マヘカケ二ツを寄附したり。

●大阪一致女學校のガーピン孃は　去十月三日金三圓を、岡山孤兒院に寄附せり。

●婦人共立育兒會の參觀　同會事務所は下谷區二長町一番地大日本衞生會内の小高ゐつ方なり、會員又は會長の紹介を得て病兒救療の實況を觀んと欲するものは、大學醫院へ幹事の捺印したる名刺を持參する者へ限り許可する由。

●東洋英和女學校同窻會　同會にては此程卒業若くは退學せし人々を學校より招きて同窻會を催ふされしやに聞く。

●英公使夫人の慈善　本邦駐劄英國公使の夫人が慈善家なるは豫て人々の噂さする處なるが、同夫人は去月下旬本所區長岡町の東京市養育院を巡視せられしが、入院者の實況を憐まれて、今度金五十圓と菓子料五圓餘に玩弄物を夥多同院へ寄送せられし由。

●雇女の學術試驗　雇女口入所も注文につれ追追六ケ敷事をせねばならぬ時勢となりて、近頃四ツ谷赤坂邊の口入所にて雇女の試驗を行ふよしなるが、其の課目は書翰文及び小新聞の素讀なりといふ。

●密航婦女取締規則　是迄屢々記載したる如く外務省との交涉協議に多分の日子を費したるも、最早全く協議を整ひ、開港地警察官の手に委することとなり、尙ほ且つ密告する者ある時は相當の賞金を給する仕組に決定したりと云ふ。

●自由俱樂部の集會　自由俱樂部にては去る四日午前九時より會議を開き、代議士十二名出席し、交涉委員植木枝盛、漥野昇の兩氏より去る三日伊勢勘樓に開きたる各派の交涉委員會の結果、即ち男子の高等師範學校を廢し、單に女子高等師範學校のみを存し置く可べしとの議決を報告して衆議に問ひたりしに、別段の異議なく、交涉委員會の議決に從ふ可しとの事に決したるよし。

●婦人の貴族院傍聽　去る六日の貴族院傍聽席初て四人の婦人を見る、曰く奈良原繁氏夫人、同令孃、子爵久留島通簡氏夫人、村上桂策氏紹介某。

●女軍　西村農商務次官大に赤阪の女軍を募りて大臣を饗せんとすと、一老人之を聞て噓然として「願くは國會を蹂躪するの勇氣を消磨せしむること勿れ」と苦笑一

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

番す、と東京日々新聞に見ゆ、怪事。

●婦人矯風會員國會議員に勸告書を贈る　婦人矯風會員にして議員の妻君たる某女等より、國會議員一同へ勸告書を贈りたり、其旨意は、議員諸氏が清德を保ち、醜陋なる藝娼妓體に戯るゝが如きとなからんとを望むにあり。

●本郷定次郎氏の妻君　麹町區一番町三十七番地なる貧民救助曉星園主本郷定次郎氏の妻君は數月以前、同氏に嫁する所なり、爾來大に夫の業を助けて働かる、聞く所によれば、妻君自ら簪笄衣類を賣り、自らは弊衣を纒ひ、勇然として貧兒を養ふ、夫をして事に耐へ業を務めしむるもの、妻君の力大に與れりと、養ふ所の貧兒等妻君を呼びてお母さんといふ、而して妻君齡僅かに十七。

●娼妓取締規則改正し　娼妓の年限無期限となれり、ア丶隣媢なる哉、吾人いつまでか斯るとを見聞くに忍びん。

●福澤諭吉氏の姉　豐後國中津に正教會あり、教會員男子多し、女子の信者は、福澤氏の姉なる服部ドロヒヤ姉と、其姪と、二人のみなり、服部姉は熱心にして能く盡力せりと、正教新報に見ゆ。

●鹿兒島女學校に聘され居し米國女教師　は都合ありて同校を辭し、長崎に歸りたり。

●産婆　福井縣下敦賀郡産婆講習所に於て、本月十日産婆試驗を行ひ及第者十七人へ習熟證書を授與せり。

●信州上田の養蠶　同地にては壯大の家多し、而して養蠶によりて総く財産を作れる者多きに居る、上田の地、一万戸の養蠶家が収入する金額は年々無慮五百万圓なりと、婦人の動きも亦大なる哉。

●東京府下女學の概況　昨二十三年末の調査によるに、府下小學校女生徒の總數は三万七千五百五十五人ありしと云ふ◎小學校の女訓導は七十七人、同授業生は五十七人、私立小學校女教員の數は四十三人、同授業生は三十五人、昨年一ヶ年の中、小學校教員學力檢定試驗に及第せし女子五十六人ありたり◎私立專門學校に女教師たる者は一人、私立專門學校の女生徒は四十四人前年に比すれば二十四人を減ぜり◎府立高等女學校は教員十二人にして、生徒は二百十七人前年より二十人を増せり◎私立高等女學校は十七校あり、女教員は百七八前年よりも三十七人を増せり◎各種學校に女教員たる者は私立に九十三人あり、女生徒は私立に三千六百五十九人あり前年に比して百三十三人を増す◎幼稚園は公立十三、私立十七、保姆の數は公立に四十一人、私立に四十二人あり。

●東京府下伊豆七島及び小笠原島の女學　一昨二十二年の統計によるに伊豆七島に於ける修學の女生は百八十一人あり前年に比すれば四十七人を増す、小笠原島に於ては昨二十三年末の調査によるに、修學の女生四十四人ありといふ。

●京都府下の女學　昨年の概況は京都に於ける學齡就學の女兒は二万八千六百九十二人、前年より五百五十二人を減ぜり◎小學校の女教員は九十八人、前年より二十六人を増す、授業生は女六十三人、前年より十二人を減ず、俸給は女教員にて最多額十三圓、最寡額六圓、女授業生にて最多額八圓、最寡額三圓◎師範學校は女子部を改造移轉せり、女子學科進歩の著しきは、論理、數學、習字、圖畫等なり、女教員は三人あり、卒業の女生は二十一人あり、昨年末女生徒の數三十四人◎市立畫學校に學ぶ女生は二名◎高等女學校は教場寄宿舍新築落成して授業管理上の便宜少なからず、又七月より唱歌專修科を設けたり、教員は男十五人、女十五人、生徒は四百五十九人前年より十七人を増す、當年の卒業生三十八人あり◎各種學校に女教員たるものは四十人、女生徒は千百四十人。

●奈良縣下の女學　昨年の調査に由るに、同縣下にて學齡就學の女兒は一万九千八百一人あり◎昨年中に小學高等科を卒業せし女子は六百六十五人◎各種學校は悉く私立にて、女生徒の數百六十四人◎幼稚園幼女の數は五十七人。

●神奈川縣下の女學　私立小學校七十八あり、多くは貧民子女就學の目的を以て小學簡易科を授く◎昨年度より師範學校に女子部を置かんとせしが、通常數會にて之を否決せり。

●埼玉縣下の女學　淑德女學館は生徒十五人あり◎幼稚園幼女は九十一人あり。

●秋田縣下の女學　昨年の調査によるに同縣下就學の女兒は六千百九十八人あり◎小學校の女教員は四十三人、同授業生は三十九人あり。

●山梨縣下の女學　昨年の調べによるに同縣下學齡就學の女兒は一万千二十二人なり◎師範學校の女生徒は十九人あり◎師範學校附屬小學校に學ぶ女子の數は百九十一人、卒業女は高等科に八人、尋常科に十四人なり◎各種學校に於ては女教員五名、女生徒二十七人あり◎幼兒保育科は、師範學校附屬小學校内に在り、其目的は獨り幼兒保育のみならず、女子師範生徒をして幼兒保育の方法を實習せしめ兼て其模範を縣下に示さんとするにありといふ、保姆は師範學校訓導より兼務す。

●石川縣下の女學　昨年の調査によるに同縣下公立小學校の女教師は百四十一人、同授業生は九十二人あり◎師範學校の卒業生は女子八人、前年より二人を増す、現今女生徒の數五十四人、前年末に比すれば五人を増す◎私立金澤女學校は漸次隆盛に赴く。

●鳥取縣下の女學　同縣下にては昨二十三年女子部を開設し、女生徒十五人を入學せしめたり◎幼稚園は私立にて昨年五月設置す、保姆は同縣女子師範學校卒業の上保姆の傳習を受けたる者一人、其他助手數人あり幼兒は男二十七人、女二十二人にして、漸次進歩の景況なり。

●朝鮮京城在留の本邦人　は男子四百五十三人、女子二百五十一人、戸數百六十六なりといふ。

●四日市通信　◎當地婦人會には二種あり、一は婦人會にて一は慈善會なり。

●福嶋縣通信　◎孝童　福島縣田村郡三春町大町足袋職白石民五郎長男民太郎（十二年）は、實母（こま）が三年以前より病痾に罹り、東京大學病院へ入院せしも其の効なく、歸宅治療、今に起居も自由ならざるを、民太郎一身に引受けて親切に看護し、暇あれば四方山の世間話や母の好める物を與へて慰さめ居ると

云ふ、年もゆかぬ此子にして此事あるは感心の事と云ふべし。

◎小學生徒の龜鑑　仝縣仝郡三春小學校尋常科四年生𢢽野カ子（十二）高橋トミ（十一）の兩少女は就學以來未だ一回の落第もなく勉强し居るが、殊に𢢽野カ子子は旅宿營業なるより、晝夜家内の混雜煩擾に妨げられ、充分の復讀もなし兼ぬるとありて、屋上の物干塲に登りて勉强後は受持教師の寓居に通ひ、風雨寒暑の嫌ひなく毎夜通學なし居るより、他の生徒等も從て續々勉學する者多きに至れりとぞ。

◎生徒の友愛　仝縣仝郡新町宮本町に菓子製造を業とする秋山德藏は、長男德太郎（十八）二男德松（十六）長女トク（十）の三兒を擧げ、二男長女の兩兒を通學せしめ居りしに憐むべし昨年九月下旬二男德松は黄泉の人となりしより母のハリは是を悲み、俗に云ふ血方の病症にて、是れ亦四十六歲を一期とし續て病死せり、あとに殘りし德藏の悲哀落膽はいふばかりなく、悲み積りし果は重き枕に就きしより長男德太郎、長女トクの驚き大方ならず、彼此日方手を盡せしも其甲斐なく其年霜月上旬返らぬ旅路に赴きける、重れ〳〵の兄妹が不幸を傷み、同校生徒三百五十七人より金貳圓二錢八厘五毛を醵出し、去る十三日職員一同生徒共々同家を訪ひて、懇に兄妹を慰め、且つ將來の生計方法等迄說き力を添へて立歸りたりと云ふ、其友愛喜すべし。

●廣島通信　◎燒失後の英和女學校は、當市上柳町に假教塲を設け、教授中にて、一時衰微の景況を現し有志者大に憂慮せしも教員諸氏の篤信空しからず、今や上帝の惠全校に降臨し、日に盛大に赴き、且再建築も將に近きにあらんとす、全校の幸福之に過ぎず。

◎過般來岡山孤兒院義捐金募集の爲め發出員數名來る、當地の信者奮て之れが奔走に從事し、各地等に於て若干の義捐金を得たり。

◎惡弊一たび去りて又來り易し、一たび滅せんとしたる淫風も今や再燃して其頂上に達し、廉恥節操なき醜業者は當市塋丘町を以て一大妓樓を建設して吉原に擬せんとす、噫何等怪事ぞ、廉潔の民をして非常の慘境に沈淪せしめんとす、此際藥地平角（傳道士）吉田基治（商業報新記者）の二氏、之れが調査に從事して餘念なし、市民を警醒する近きにあらんとす、神の惠幸に彼等が運動の上にあらんとを祈る。

◎縣下備後東南部地の婦人の職業は、世に所謂備後表にあり、今や輸出品倍多く男女共に之れが勞働に餘念なし、通常之を織る一日一人に對する一二枚にして其賃金殆んど拾錢、甚しきに至りては三四枚を織る者あり、然れども是れ稀有の事にして前者を以て普通とす、今や海外輸出の漸進歩して其產出頻繁且熟煉、漸く進んで今や殆んど二十間餘の疊表を產するに至れり、其隆盛知るべきなり。

●盛岡通信　◎岩手女學校職員　岩手女學校の主任教員は、東京女學館卒業生篠原カツ子、東京高等女學校卒業生太田フキ子、東京女子職業學校卒業生井原コトの三氏にして、外中學校教諭並に高等小學校訓導其他の諸子都合男女十二名の囑托教員ありて、各學科を分擔して教授せらる、監理は村木經策氏、事務係は上田貞成氏なりと。

●高知縣通信　◎中村女子手藝學校　は生徒目下八十名に達し、教員中村チカ女史外壹名の助手の二名にては授業上手の廻り兼ぬるに付、去る十月の初めより入學申込み人續々有之も據なく謝斷しある赴なるが、今入學の生徒は孰れも教員の注意に依り追々上達し、來る廿五年二月東京府尋常小學科驗定試驗を受くる見込にて、算術、裁縫を非常に勉强し居るとの事、又た教員中村ちか女史も、明年二月文部省に於て初めて執行ある師範學校中學校高等女學校裁縫科教員驗定試驗を受くる爲めに上京せらるゝと云ふ。

●廢娼記事

●福嶋縣會にては廢娼を可決せり、請ふ左の報を看よ。

（第一報）當福島縣下公娼全廢論者運動の結果として本縣會は第一次會に於て十名に對する三十五名の大多數を以て公娼全廢建議可決相成候間右不取敢御報知申上候也、（女學雜誌御中）

（第二報）廢娼第七拾號

拜啓陳者我が國躰の運動は先つ一段落を告げ即ち十一月十四日福島縣會に向て廢娼建議書提出致候其狀況は左の如し

一平及び泉部建議書壹通　此同盟人員百十名
一夏井部　仝　仝　七十一名
一内郷部　仝　仝　六十七名
一小名濱部　仝　仝　三十三名
一久の濱及び岡倉部仝　仝　凡七十名
　但し久の濱部は明廿日送達の筈なり
合計　建議書五通　同盟人員四百五十一名
一建議出主意書印刷物　五十部
　是は縣會議員壹名各壹部つゝ配布
一縣知事警部長農商務課長其他當地方裁判所、郡衙、學校、役場等へ同斷配布せり
一廢娼論は愈々猛烈にして我が磐城地方の一大輿論たり

以上數件本月廿三日日本廢娼同盟青年會御出席の節去月廿五日第三十五號を以て御委任及び候條件と共に御報告被下度此段及御委任候也

●鹿兒島縣會にても　同じく廢娼を可決せり。

●千葉縣會の廢娼建議　同縣會に於ては去る三日八番山口重燾氏廢娼の建議を提出し、貸座敷營業者の驚愕一方ならず。

●熊本縣會へは　熊本婦人矯風會より廢娼建議を呈出せり。

●宮城縣會にも　廢娼の建議出づ、運動盛なり。

●山梨縣會にも亦た建議書出でたり、廢娼の演說會あり、凡ての運動益盛なり。

小公子の評　其二

●小公子　坪内雄藏君

原書の精神は無邪氣なる小公子を主人公に利己にのみ傾ける老貴族を副主公にして「無邪氣」の周圍に及ぼせる感化並に周圍の「無邪氣」に及ぼせる影響を寫さんと力めたるものゝ如し小說としての價値如何は譯書に就きて論ずべきにあらず只一言すべきは斯く純潔無垢の良小說を紹介したるは女學雜誌社平素の主義よりいふも誠に能く撰みたりといふべし譯文はまことに流暢平易なれど其中に譯者が深切なる苦心の跡見えたり就中長幼貴賤の言語を別たんとて又は文情の調和をはからんとて「キット」「大したもの」「鼻が高い」「目がない」等の俗語を用ひたるが如きは殊に全力を灑きたりと見えていとめでたし行文の中に餘り多く「御」の字を用いたるが少しく耳だてど咎むべき程にはあらず「人にいひ〳〵しました」「しつかり歩いてゐました」なと言葉を重ねたるはおのづから優しき女教師が幼童に敎ふる時の風に似たり何れも譯者の婦人たるを證してなか〳〵にゆかし兎にも角にも當今外國美文學輸入の必要あるに際し斯く原文の精神と外形とを寫し出さんと力めし翻譯の見はれしは文學のため賀すべき事なり。

（早稻田文學第四號）

●小公子　無、無、無。

未だ原文を味はゝざるも譯者の明瞭且つ簡潔なる文字を讀むで充分にその妙味を窺ふに足らむ。再三の板を改め是を場に上したりと云へば原書已に江湖の贊稱を博したるを知るべし。

余の知れる所にて小兒の情を寫せしものヂッケンスに「オリバー、トウヰスト」又「オールド、キユウリオシチー」、「ショップ」等諸篇、トルストイに「幼兒、ト童及び靑年」「ドストイエフキー」に「關忠と侮慢」あり。父母の愛に育養せられし無垢なる情若くは凌辱殘酷なる中に在つて常に鼻眼を張り人を視るの狠惡なる心を描きて其精を極めり。バーネットの是書未だ其庇たるを得ずと雖ども、淸白無垢の童情が能く殘忍なる虎心を化するに足るを明かにして餘蘊なく又前者に比して格段なる遜色あるを見ざるなり。

是を我が今日の作家に於て徵するに嵯峨の屋主人の「初戀」、「野末の菊」漣山人の「初紅葉」「妹背貝」等頗る妙構を以て聞ゑ終に氏は兒童の心理に精なるを以て儕輩の間に推さる。殊に「初戀」の淳なるは蓋し現代稀に見るの文字にして殆んどトルストイの神域に到達せり。然るにバーネットの此書を以て比ぶるに頑剛抗逆なるドリンコート侯爵を見るに温和老實なるホップス伯父さんに於けると毫も異ならざる小公子の單純なる腦裡を顯示する緻密の文字未だ遽かに軒輊するを得ず他の漣が諸作は中々に及ぶべくもあらざるなり。

明範の上に腰掛けてホップス伯父さんと大統領選擧を語るエロル、セドリック、二三千回も航海を試み度々身を切られ燒て喰はれ十五回また二十回も頭の皮を剝がれしヂエレがケンケイ咄を聞きそのまゝに母に語る愛らしきセデー、執拗剛戾にして容易に口を解かざる老侯爵の前に餘念なく熱心にベース、ボールを說明するフォントルロイ、老侯爵と敎師モドント氏の前に手紙を書き綴字法に苦んで一心に丹精を凝し「何卒」「敬白」等の文字を挿み得意なる小公子、凡そ是等の情母の愛に煖まりて世路の辛酸に泥まざる純淸淨潔なる幼兒の有する所として貪婪飽くなく血を啜り肉を啖ふの羅刹も其前に在れば胸裡の邪念を追逐するを得む。而してバーネットの是書は能く此情を細寫せり。

余は原本を讀まざれば一牛を味つて輕々しく全豹に及ぶを得ず、唯前半に依つて窺得たる所斯くの如し、余は末松氏が譯出せし「ドラ、ゾーン」よりは寧ろ是書を推薦するに躊躇せざるなり「ドラ、ゾーン」が情思纏綿たるを寫せしは妙なりと雖ども、未た如かず、「小公子」の思想純一なるに。

譯者若松賤子の序に曰く

「邪道に陷らうとする父の足をとゞめ卑風に流れゆく母の心に高潔の德を思ひ起させるのは神聖なるミッションを擔ひたる可愛の幼子に限るので其任を果すものは他に何も有ません」云々

思ふにバーネットが意の存する所もまた茲にあらむ譯者能く此意を體して以て此書を譯す、徒らに典文を衒ひ功を貪らんとて筆を磨する尋常飜譯家に比して先づ一層の卓見を供ふるを競ふ。

賤子女史の筆簡潔にして意の馳するまゝに任せ絕えて修飾する事なくして少しの澁滯を見ず。恰も如斯純一なる思想をもて充溢する是「小公子」を譯すに協へり。蓋譯者が西文に熟通する事の深きに依ると雖とも抑もまた天資の筆を運ふして區々たる修飾を賴まざる故にあらざるか。余は最も是等の文字を喜ぶものなり。嚮して「小供のよみ本」と云へど、かのフエアリー、テールの極めて稚びたるに似もやらず、老境に臨むの人も其妙味を試めて舌頭快味を覺ゆるに足らむ。

賤子女史甞に飜譯「忘れがたみ」あり、此篇と想の較や類する所あるが如し。此二篇を讀んで女史が常にダイダクチックを說き文學を以て敎育の方便となすを知るを得べし。

能く先人と轡を並べて馳騁すべく、若松賤子が「小公子」は毫も原意の妙を殘傷せず作家に對して負く所なしと云ふを得す。

（國民之友第百卅八號）

●小公子を讀む　湖處子

小公子は滿場の喝采の裡に出で來る、其譯文の得失については既に翻譯王思軒居士の滿口採揚する所なれば、余亦何をか云はん、余は唯原著の着想及び結構について一言せんのみ。

小公子は明かに理想的の小說なり、何となれば一個天使の性質を以て此小公子に擬人したるものなればなり、プレトーが所謂る上帝坐邊の靈魂が地に降りて人となれるものゝ裡、最も完全無垢なる性質を顯はしたるものなればなり、キリストの幼時の生活は皆人の常に想ひて得ざる所、小公子或は其摸形を得たるに近から

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ん歟、既に理想小說と云ふ、小公子の性質の如何に人性より高遠なるも告むるなきのみならず、人性より神性に昇進するほど理想の高遠なるを示すに足るべし故に小公子が其智其情其意及び其能辨に於て如何に七歳にませりとて固より是非すべき所なく、寧ろ其の能く天使たる所以のものを發揮して餘蘊なき著者の技倆に敬服せんのみ、唯惜むらくは此の小天使に對するに他の大悪鬼を以てせざりしことを。

夫の痛風症の老侯伯は一見して大悪鬼の如くなるも、其實は貴族的傲慢と武人的酷薄の兩質を有するに過ぎず、渠能く貧者を叱し牧師を責むると雖も、渠が全能の君王として戴く所の國王の指呼の前には渠も亦一個可憐の小兒たるを得べし、何となれば不仁者の本領は前者にあらずして主として後者にあればなり、小天使が夫の頑翁を自由に操り得るを一見すれば異なる樣なれども再論すれば怪しむべきものなし、其の深根の不仁者ならざるが故なり、故に曰く此の小天使を以てせば他に必ず理想の大悪鬼を要すと。

人物の描寫に於ては保姆のメレ餘りに淡泊に過る樣なり、渠は小公子の看護者なり、稱讃者なりこれらにまして第二の母なり、渠が小公子を割愛するの情殆どエロル夫人に劣らざる樣可想せられたり、然れども訣別の一段に於て渠は隱れて見えず、唯一個俗談なる他のメレあるを見るのみなり、蓋し理想小說の短處は其或る一部に偏して全部に周遍せざるにあり、此書亦此病を免れざる乎。

然れども此は唯原著者について云々せるのみ、譯者が無垢書庫の堆中より此の最好の著作を撰擇したるの勞と、腐敗したる家庭に向て此の清淨純潔の空氣を注入せんとするの望に對しては、余寧ろ其感謝し稱讃せざるを得ん哉。

(十一月廿六日國民新聞)

●小公子の評(若松しづ子譯述)　是者　山人

凡そ小說に於て、兒童の思想を其儘に寫すは難し、兒童が情想の單純にして高尚無邪氣なるを巧に寫す最も六づかしシルレルは兒童小說に就て、極めて精細に注意したり、兒童が單純なる情を寫すの弊は、唯に無味淡泊に走るのみならず、面白味を失すべし、何となれば經驗少き幼き思想には、錯雜せる多くの情念の留まらざればなり、夫れ小說は種々なる事情、樣々の境界を描き出して、其人が思想感情の變化錯雜の極めて著しきを寫すに於て始めて妙なるなり、然るに此の雜多の境を唯一の單純の念以て巧に讀者をして其情を思念せしむるに至ては蓋し困難の業と云つべし、本書はセドリックなる一小兒を以て主人公となしぬセドリックの怜悧にして、優美無邪氣なる情を巧に寫し出せり譯者が骨折の處思ふに餘りあり、文章は平易、流麗なり、まゝ言文一致體の處あるが、矢張り言文一致體として綴るべきか、去れども、そは偶々に使はれし語句に依る、全體には其いやらしき、いやに變手古なるヶ處少きは、先づ上出來と申すべし、併し「かういひました」とか「どうしましたつて」とか云ふ處多きは、相手を求めて話すが如き心地せられて、折〳〵は自傳體の論調かとも思はれる處ありぬ。

又セドリックの談の中に大人じみた事ありて、如何に怜悧なるも斯くてはと思ふ處あり、且つ其餘りに多辯にして、小悧巧過ぎて、此の人物は未來唯だ一個の優さしき平凡なる人となりぬ可しと感じられぬ、思ふにセドリックは慈善の心に富み無邪氣の好兒童だると共に、述者も其邊に力を用ひられしもの、如し、兎も角も作者が其思想と其情脉を精細に穿たれしは、感服の至りなり、尚ほ本篇は其前篇なれば、后篇の出るに至て、精細なる批評を下さんとす、讀者よ此の小說の述者は女學雜誌の若松しづ子氏なり。

(十一月十七日、中正日報)

●小公子　賞鑑之哲薩

評者は原書を見ねば、其の譯の當れるや否やは知られど、其の原文の精髓をかみしめられたる譯文なるは、保證すべき節あり。其の着想の面白さ、いはん方なし されど譯者も自から云はれ、世の人もてはやす如く、只管に幼き天使の罪なきさまを寫し得たるが、此作の妙處と言ひ得ぬやに思はる。小主人公は母の意の下にのみ育てられし幼兒としては寧ろ如才なさ過る處ある樣には思はれまじや。小兒は人の容顏より其感情を讀むこと、往々成人の及ばぬこともあるものなれど、此小主人公は、まゝ容顏よりならで、己が思想の能力によりて、思返して話頭を轉ずるなど、あまり「ませ」過ぎてやあるべき。ホッブス氏も猶辯、ドリンコート侯も猶辯、此の平民貴族兩樣の感化が、小公子の人物に如何に影響するかは、人性の研究には必要のことなり、後篇を待て、細に譯者の惠によりて之を研究するを得ん。文字に於て、當時の普通文字には、此位の言文一致こそ恰好なるべく思はれ侍れ。篇首の自叙體まがひに讀まるゝは、評家已に道ひ及ぶものあり、少しく瑕瑾とやなるべき。製本裝飾挿畫も面白く、兎に角近來無二の好譯本なるべし。

(亞細亞第廿二號)

●小公子　愛　山　生

題して小公子と曰ふ本と童子の爲めに著せしが如し而して說く處は即ち英米社交上の實相無邪なる小兒と罪悪紛糾せる世界との衝突、讀み來りて人をして境遇の人を化する太甚しき者あるを知らしむ好箇の風俗小說。文は言文一致體にして原文の勞力、格法を失ふまじと勉められし迹歷々たり作者の苦心察すべし。

(護教第廿二號)

●答書　下　田　歌　子　君

さて過日は御令閨樣御譯述の小公子壹卷御惠與に預り有難く早速拜讀仕り候右小說はかねて原文も有名なるものゝよしに承り及び候へしがまことに目下小兒教育の爲參考の一助とも可相成近頃珍らしき良小說と奉存候御譯文も殊に平易簡明なる談話體を御用ひ相成候故却て能く其實情眞景を失なはれず最も面白くおぼへ申候何卒速かに後卷の御發兌渇望に堪へ申候まだ拜晤を得ず候へば御序に御令閨樣にも宜敷御禮御申上の程希ひ上候先は取敢ず御禮のみ。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

震地傳道隊報告

婦人矯風會錄

○震災地特別通信　第四報

藤井米八郎

二日午後四時敬愛なる兄姉さ袂別し横濱に至り我傳道隊に馳せ加りたる醫學生中村友吉君さ同伴し同地を發せしは后十時四十分なりき汽車御殿場に着せし時余は胸苦しくなりたれば停車場に降りて散歩旁厠に至り歸車の途中闇夜にて足元暗き爲め石に蹟きたり此時長靴を穿ち居りたる故足の運び遲純にして手痛くたをれ石地にて額を打破り之さ同時に掛けたる眼鏡打碎け瞼をも微傷を帶び左手さ母指の頭を傷めたり故に直に濱水の處に至り靜に自ら患處の局部を洗滌し客車に歸りければ我同行の中村君余が面相の異なりたるに愕れたり然し余は幸に醫者に伴れたば直に手當は受たれごも中村君の藥代の入りたるカバンは荷汽車に托したれは暫時の手當を受たり然し負傷は至て輕少なりし

三日前九時半名古屋着直に竹が鼻へ赴く途中雨降り出し加ふるに携帶の手荷物多かりし爲進行遲滯せり我一行四ッ谷の手前迄來りける時服部綾雄君に立會ひぬ二三の問答を殘して訣れたり后一時十分四ッ谷に到着せし時亦强震動ありたり人心悩々たり雨は益々强降り竹が鼻へ到着せしは后四時半頃なりし

竹が鼻病院

此土地の人々の信托益々厚く此頃に病院の建築に取かゝり明年二三月頃迄此處に施療さるゝ由大坂バルナバ院長飯野勝三郎君の一の枝に設けられたる假病院も昨日限り引揚られたれば此竹が鼻川上君の假病院にて治療さるゝ事さなりぬ余の負傷も此處に於て治療を受け后五時過き車を雇ひ大垣に赴きぬ日は全く暮れ雨さへ降り道路は地震の爲地割多く加ふるに砥石の如く磨けてすべり余の車夫は四回迄打伏樣にすべり、たをれけり非常の困難を經て漸く此夜八時三十分頃大垣の事務所のテントに到着す

大垣のキリスト教救濟會事務所

我本陣に到着す居合す所の人は我吻契の友沖田、本田の二氏のみなりし、湯谷氏は未だ歸垣せず本郷氏は緣者永眠の爲め老媼四名を救ひ之れを携へ歸京せしさ亦宮崎氏は大坂の有志者さ謀る所ありて歸坂す佐々木氏は東京に小橋氏は孤子を集むる爲め竹が鼻邊へ亦此頃入垣されたる岡山孤子院長石井十次氏は岐阜へ之も孤子募集の爲なりさ亦村田氏は今尾高須へ救濟用を帶びて赴れたり

大垣の孤兒運動

目下永田氏の家に於て養ひ居らるゝ孤子男七人女七人なりし岐阜には石井氏竹が鼻には小橋氏孤子を募集し居らるれば不日一百名に滿ば岡山に連れ歸らる由今日孤子を教育する所の人は澤田廣瀨の二氏なりし

大垣の病院

此病院は先報に載たる如く京都赤十字社の派出なり震災の當時より今日迄に治療せられたるは各數百人の多きに至り殊に此の病院には重症の患者入院せり我傳道隊より玉生國子を郡長の依托により派すに余等一行今朝玉生氏を訪ふ氏は全身主の愛に滿されたる患者治療さるゝ樣を見り歡喜胸に塞れり氏は初め二三日は其成す所に苦みたる由なるが昨今院長は玉生氏の心を推して總て氏の意の如く働きぬる方になり此頃は大に滿足して看護總てを掌られ居らるゝ余は此所にて負傷の治療を院長より受け玉生氏のほうたいを受たり此病院に於て玉生氏が意見の如く看護を掌りてより大に事務擧り最早他に看護婦を要せすさ云へりさ。又此度同伴したる吾隊の醫師

中村友吉君

氏は大垣にて働く歟亦は他に必要の場所あらは之れを助くる心算にて傳道隊より派出されたり當大垣病院に於ても目下醫員に欠乏なき由なれば夫より郡役所に至りて郡内に醫師の欠乏なきやを問ひぬ郡長は登縣して代理之を受次ぎ切角の御心切なるも只今差當り欠乏の所なしさ故に氏は豫て入垣の途路竹が鼻に於て打合せ置れたれば同地假病院に一人の醫師を要せば氏は本日午後出發竹が鼻病院へ傳道隊の代表者さして働かるゝ事さなりたり

地震さ雪降り

昨夜よりしば〳〵地震あり本日后八時四十分過近頃の强震動にして多分潰家もありつらん此頃に至り亦震動の度を増したれば人々戰々悩々さして安ぜず加ふるに雪降り貧民小家の慘状察するに餘りあり請ふ博愛なる義人よ恩を垂れよ

岡山孤子院長石井十次君

石井氏岐阜より后六時頃歸垣す氏は手織縞ゴロ〳〵したる衣を着し頭より赤毛布をかむる其風采恰も朴直なる村翁の如し一度口を解ば其一句一言も尙信仰より出さる者無く全く献身の人たるを知る氏は余等に岡山の孤子院の成立を語り氏が信仰に因て大讃なるを知る余が歸京の土産話しを得亦余は明年解氷閑暇を得て岡山に遊ふ事を約しぬ鳴呼今時基督教會の眠れるを慨し大に警醒する所あり東には大須賀氏あり西には石井其人の如き者あり未だ基督教會の全く眠れるにあらす近來一大攪破するの氣さしあり

太田村の全燒

大垣より南七里斗り先に石津郡太田村さ云へる一小寒村あり家數廿四個程の村なるが去月廿六日の大風にて全村全燒し苅入し稲までも燒き失ひ皆着のみのまゝに出でたれば其慘狀實に愴然たり加之其夜より雪降り出し廿七日へかけ五六寸も降り積りけれは其狀見るに忍びず此報に接して當救濟所より特派して衣類等を與へ專ら救濟を書せりさ

廿四年十二月五日夜

大垣テント

○震災地特別通信　第五報

藤井米八郎

ボックス將軍入垣

救世軍の勇將ボックス氏昨五日午後六時三十分着垣されたり氏は直に岐阜へ出發さる氏が在濃は四五日に止まる由に聞けり

孤子の救養

孤子は至る處多く之を救ひ取る事の非常に世人の注意する處さなり其感動を與ふるの大なる事は纖々陳述せし處なり然るに先頃より佛教黨此間に種々の流說をなし甚だしきは血を吸取られに遣るなど、愚夫愚母をまどわし尠なからざる障害をなせど至誠の向ふ處敵なく岡山よりは小橋氏竹が鼻邊にて岡、中澤、廣瀨氏は岐阜明治邊に亦村田氏は東京の或教會の依賴により高須今尾邊にて何れも孤子を募集さる第一回より三回位迄に募集せし分は多少注意の屆かざるも經驗の無きにより局外者より是非の冷評を蒙りたるも此頃に至り一層注意され大に好結果を見るに至れり玆に嘆ずべきは最早十二才以上の者は中々孤子さして預けざるにより種々諭して后彌々連歸るだんになるも多少金圓の貸與を請へりさ此地に於ては十一二才にもなりたる女子はハタ織工奉公に出して夫より十三四才になれば織屋に居りし時覺たる實淫などの目的にて名古屋へ奉公に行き終に娼妓藝妓などに各地へ輸出さる此間の事は皆其の子の出世奉公さ云ふ勢ひ斯る有樣故十一二才以上の者を拾ひ集むる事最さも急務にして最も至難なり我黨廢娼に熱心なる者は殊に之が爲め盡さゞるべからず

救濟事務所の移轉

本日より事務所を移轉す

岐阜縣下大垣廓町蒋町役場跡基督教救濟事務所

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

右の處に假事務所を設け追て新築の事務所に移る筈なり
佛教黨の運動
基督教黨が卒先して運動せしより今は佛教黨も默視せず物品を與へ施米などして近頃珍らしき運動を試み居れり本日は大谷派本願寺の某和尚が當大垣支部へ來れる由にて近郷近在の善男善女蟻の如く出で道路の混雜非常なり（十二月六日）

●震地傳道隊會計報告

第三回（十二月一日より七日迄）。

○入の部

九十七圓七十九錢九厘　前回迄入金合計
（前回報告中林友惠氏の寄捨を誤て脱漏したるにより今改めて正す）

四圓三十七錢　十二月一日より七日迄入
右內譯

金三拾錢　大阪東區道修町三町目卅五番屋敷　高槻東吉氏
金一圓　櫻井精作氏父君
金一圓　同　氏母君
金五拾錢　櫻井精作氏
金廿錢　櫻井有作氏
金廿錢　櫻井耐作氏
金拾錢　櫻井さく子
金一圓七錢　仙臺日本基督教會及美術教會信徒

總計　百〇二圓四十六錢九厘

○出の部

六十一圓十三錢一厘　前回迄出金合計
十七圓八十錢　一日より七日迄出費
右內譯

十五錢（一日）　大垣小橋勝之介氏へ電報
十五錢（四日）　大垣石井十次氏へ電報
五十錢　小野垣氏へ渡金足
十圓（三日）　藤井米八郎氏持參
七圓（五日）　松田順平氏持參

總計　七十八圓九十三錢一厘
現殘金　二十三圓二十三錢八厘

○寄附品覺

衣類六ツ風呂敷一ツ　木村かめ子
手拭十筋　高橋瀬子
衣類貳　松田龍方
衣類、袷、其外雜品三ツ　吉田伸子
綿フラチル丈巾八尺餘　大岩一女
外トウ一、衣類二、靴下貳、　犬養鉎之助氏
衣類三、其他雜品　小島官吾氏
衣類一ツ　高儀いふ子
衣類三　石橋伊勢子
衣類三十三　無名氏

女學雜誌社出版書目

鈴木弘恭大人述	つれ〴〵草講義	一冊	價金八錢
鈴木弘恭大人述	文法口授	一冊	同十六錢
鈴木弘恭大人述	百人一首講義	一冊（改正）	上三十五錢 並二十八錢
船越鼎太郎君著	產婦小兒攝生法	一冊	金十六錢
關輪正路君纂	ひめ鑑	一冊	同四十五錢
中島俊子君著	善惡之岐	一冊	同卅五錢
横山雅男君著	婚姻論	一冊	同十六錢
島田三郎、植木枝盛兩君演說	廢娼演說	一冊	同五錢
巖本善治君述	妓樓全廢	一冊	同五錢
島田三郎、巖本善治同著	公娼可滅	一冊	同四錢
農學士寺尾熊三君著	植物學	一冊	同十二錢
林學生星野愼之介君著	昆虫植物金石採集法	一冊	同十錢
明治女學校教師八木兼長君著	和歌手本	四冊	同一圓
女學雜誌社編輯	演說著作材料	八冊	同四十錢
巖本善治君著	鐙子小傳	一冊	同八錢
訓蒙繪双紙	猫と鼠	一冊	同五錢

下六番町六番地
女學雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

拾八號去ル廿日發兌セリ

女學生

郵税共一冊六錢　郵券一錢増

女學生

義捐辨……星野愼

漫筆

木村鐙子の墓に詣づ……シオンの山人
高樓漫言……向陵子
友愛（隨感四）……川合信水
百感雜筆……暗光子
非禮勿視非禮勿聽……末次政太郎

集錄

徒然草を讀む……（女子神學校）森田千子
晴夜述懷……（明治女學校）あい子
秋の夜の月……（女子學院）秋野すゝき
山里に菊をめづる……（明治女學校）ふき子
所感……（共立女學校）一女生

寄書

墓畔の感……山中田夫
愛美人……村田鉄肝居士

震災感話

震死の慘狀及び所感……可愛子
震地夜行の感……天知子
根尾の谷に武を爭ふ……暗光子
眞誠の救助機……如是子

編輯者星野愼之輔　女學雜誌社發兌

女學生全盟各女學校は左の如し

○明治女學校○女子學院○新榮女學校○女子神學校○共立女學校○フエリス和英女學校○頌榮女學校○跡見女學校○立教女學校○成立舍女子部○女子獨立學校○海岸女學校○長榮女塾○東洋英和女學校○靑山英和女學校○金城女學校○高田女學校○梅ヶ崎女學校

徳富猪一郎編纂
久保田米僊畫

誕生日

一冊金十五錢　郵税貳錢　近日發賣

○斯書は父母兄弟姉妹朋友の誕節を記臆せんか爲め其の誕生日を記録する冊子也

○卷中の一面には餘白を剩して其の人々をして自から其の姓名を誕節に相當する月日の欄内に記録せしむるを得可し是れ獨り其の誕生日を記録するのみならず併せて父母兄弟姉妹朋友の手蹟帳帖たるを得可し

○他の一面には東西の聖經賢傳詩歌金言を掲げ以て晨夕の諷誦に供す

○又た米僊子の清淡奇逸なる一年の期節に相當する細畫七十餘を挿めり

○斯書を編纂したる主旨は獨り自個の誕生日を記念し祝し且つ勵むに止らず併せて其の父母兄弟姉妹朋友の誕節を祝して慇懃傾倒の情を表するにあり是豈に人生の和樂を増し社會の情緒を温むる所以にあらずや

○冊子小なりと雖淡麗清楚且つ各種の便宜備る金蘭簿たるを得可く備忘錄たるを得可く金誠集たるを得可く又た文苑繪畫の奇觀たるを得可し何人も一本を持す可き要書と信ず

○クリスマス及び新年祝の用品としては無上の佳書たる可し發賣近きにあり幸に御購求を請ふ

發兌元　京橋區日吉町四番地　民友社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌社取次書目

著者	書名	冊數	價
金森通倫君著	日本現在及將來之基督教	一冊	價二十錢
池袋清風君著	淺瀬の波	二冊	同三十錢
花房庸夫君著	明治女大學	一冊	同二十錢
松田敏足君著	女小學躾草	二冊	同四十錢
吉田利行君著	日本女子讀本	三冊	同三十九錢
香月恕潔君著	女子文例	一冊	同二十五錢
安東松次郎君著	貧兒の教育	一冊	同六錢
湘煙女史君著	善悪之岐	一冊	同三十五錢
安枝武雄君編輯	正義の反響	一冊	同十五錢
鈴木弘恭大人著	作文口授	一冊	同二十八錢
三島通良君著	母のつとめ	二冊	同七十錢
新倉鍵次郎君編	國文自在	一冊	同四十錢
坪谷善四郎君著	日本女禮式	一冊	同五十錢
木村駿吉君著	新編物理學	一冊	同六十五錢
元良勇治郎君著	心理學	一冊	同七十錢
鈴木弘恭大人著	國文抄	續出	同三十錢
三上參次 高津鍬三郎君著	日本文學史	二冊	同一圓六十錢

品名	十二月十日
白米（一円ニ付）一等米	一斗〇升〇合
二等米	一〇二
三等米	一〇五
四等米	一〇八
五等米	一一三
正米（一円ニ付）越中米	一斗四升六合
尾張米	一三五
土浦米	一四〇
忍領米	一三六
一志米	一三四
雜穀（一円ニ付）本貫大麥	二斗八升五合
上州小麥	一八〇
竹林麥	一八〇
梅澤大豆	二〇五
青柳大豆	一九五
吟小豆	一七〇
白胡麻	一三三
黒胡麻	一五七
鹽（一円ニ付）赤穂	三俵、一二
大鹽	三、二二
本齋	五、一五
新齋	五、六〇
醬油（一円ニ付）最上・極上・上物・中物・並物	七樽七分四厘 七八 八八 一、一〇 一、二七 一、五七 一、七二 一、八七 二、〇五 二、五〇
味噌（一円ニ付）地製上白	六度、六〇
同上赤	六、六〇
同紅赤	四、一〇

品名	十二月十日
八王子織物（一疋ニ付）本糸織	四円、二五
同珍柄	七、〇〇
節糸織	三、七五
同瓦斯入	二、七五
一樂織疋物	七、五〇
同珍柄	八、〇〇
飛地黄八丈	四、五〇
同大柄	六、〇〇
甲斐絹	四、七五
黒八丈	八、〇〇
白斜子	七、〇〇
眞綿（一個ニ付）上々入金	一二〇円、〇〇
上入金	一一三、〇〇
並入金	一〇八、〇〇
松入金	一〇五、〇〇
竹入金	一〇〇、〇〇
梅入金	九二、〇〇
絹糸（一円ニ付）本練花色	二六匁、〇
同色物	二五、〇
羽二重糸色物	二四、〇
延糸太物	三三、五
芥子糸色物	二八、〇
同薄色	二四、〇
極天色物	二三、五
色物太練	二五、五
紡績器械糸	四五、〇
毛糸（百斤ニ付）ゴロス青紙印	一〇四、〇〇
同百十目	九六、〇〇
同百目	八八、〇〇
鶴印	九六、〇〇
スコッチ四本撚	八〇、〇〇
スコッチ三本撚	八五、〇〇

品名	十二月十日
製茶（一貫目ニ付）山城江州稀大頭	二円、五〇
同稀頭	二、一〇
同大頭	一、七五
同中頭	一、四五
同中茶	一、二五
狹山稀大頭	二、〇〇
同稀頭	一、七三
同大頭	一、四五
同中頭	一、三〇
同中茶	一、〇五
鰹節（十貫目ニ付）土佐夏	二四円、〇〇
同秋	二一、〇〇
薩摩夏	二〇、〇〇
同秋	一七、〇〇
伊豆上	二四、〇〇
同次	二三、〇〇
城の腰秋	二一、〇〇
房總夏	二一、〇〇
同秋	一六、〇〇
銚子秋	一五、〇〇
水戸磐城	一四、五〇
南部仙臺	一一、〇〇
水油（一樽ニ付）地水	六円、八〇
胡麻	一〇、三〇
荏油	一〇、三〇
桐油	五、九〇
綿油	六、五〇
坂油	七、八〇
石油（一箱ニ付）チヤスター	一円、四九
デボース	一、五〇
ホーキ	一、五一
ロシヤ	一、五一

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

此薔薇化粧は彼の文明のきこへ高き獨逸國にて紳士淑女の朝夕愛用する化粧水にして從來世に行はるゝ化粧水と其製法を異にすれば其効もまた無比なり殊に馥郁たる芳香は純粹の薔薇油なれば一名これを化粧香水と稱ふるなり

◉第一きめをこまやかにし、艶を出し、色を白くす
◉第二ひゞあれ、にきび、そばかすを治す
◉第三これを化粧下に用ゆれば白粉の浮く事なく又顏のあるゝ患ひなし
◉第四油類にて製したるにあらざれば衣類を汚す事なくまたねばつくことなし

一瓶 價金拾錢

文明 薔薇化粧

櫻香本舗
東京下谷區上車阪町廿五番地
守田重兵衛製

寶丹本舗
東京下谷區池之端仲町廿七番地
守田治兵衛
廣賣

取次所

京橋區銀坐壹丁目　同區八丁堀長澤町　同區南傳馬町　三丁目　同區銀坐三丁目　同區南新堀壹丁目　同區銀坐三丁目　日本橋區境町　同區通三丁目　同區元大阪町　同區村松町　同區馬喰町壹丁目　同區瀨戸物町　同區本石町二丁目　同區通二丁目　同區佐內町　同區米澤町壹丁目
佐々木玄兵衛　小林民次郎　川北屋芳次郎　松澤八右衛門　野村屋辰吉　翁屋本店　佐野屋菊次郎　須原屋平助　高木與兵衛　岩涙長藏　平尾贇平　玉置金八　森谷萬次郎　柳屋五郎三郎　岡花まさ　大木口哲

同區米澤町壹丁目　同區大傳馬町　二丁目　神田區富松町　柳原通　同區小川町壹番地　同區御成道松富町　同區明神下通り　同區南神保町　同區久右衛門町　下谷區万年町　二丁目　同區竹町十八番地　同區上野廣小路角　同區根岸　同區東黑門町　同區下谷町　二丁目角　同區坂本町三丁目
鈴鹿源七　岩涙出店　作岱藏　資生堂笠井　長尾守分堂　大和屋惣右衛門　翁屋支店　松本屋民藏　上田直吉　佐野屋福次郎　佐藤竹次郎　古能波郡園　大塚芳太郎　小澤眞助　松本屋榮助

同區湯嶋天神町　壹丁目　牛込區上宮比町　一番地　麴町區三番町　同區下六番町　同區三番町　同區飯田町三丁目　四谷區鹽町　同區同町二丁目　淺草區黑舟町　同區菊屋橋角　同區三筋町　同區並木町　同區馬道七丁目　本所區中の鄉竹町　小石川區諏訪町　赤阪一ッ木町角　芝區神明鳥居內
柳御藏　尾澤豊太郎　雨宮藤吉　小川連　大黑屋喜太郎　鈴木梅吉　大枝市右衛門　富山傳之助　梅素亭宮城　山田清兵衛　龜屋淺吉　三吉屋德兵衛　山上花朝堂　靜花堂大塚　虎屋小間物店　松下萬藏　岩本新兵衛

向嶋寺嶋村　同長命寺境內　荏原郡品川町　同郡大森南原町　横濱市賑町通　長者町　同市尾上町四丁目　同市太田町　壹丁目　同市松ヶ枝町　箱根溫泉湯元　埼玉縣北足立郡　浦和町　大阪心齋橋鹽町　北詰　京都富小路押　小路下ル　千葉縣千葉郡　本町三丁目
百花園　櫻もち　古部元吉　平林新平　齋藤泰助　鈴木龜次　王瀧叢　稻垣坤十郎　吉田長四郎　角屋兵藏　山本彌太郎　水谷勝藏　山內屋久次郎

陸奥國青森大町　六丁目　同國青森大町　五丁目　同國青森寺町　同國弘前市土手町　野州日光御幸町　上州桐生四丁目　下總佐倉町　山口縣山口道場　門前町　長崎市本下町　七十二番戸　同市鐵橋通築町　北海道函舘末廣町　同地藏町　同辨天町　同根室本町二丁目　同根室梅ヶ枝町
伊藤圓吉　奥崎三太郎　吉尾政次郎　野崎九兵衛　相馬屋定次郎　福田儀平　中村氏　阿部平助　永福號　渡邊重吉　新田太平　水下清次郎　加藤文五郎　藤野四郎兵衛　山本利輔

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

田村直臣君著

幼年の針路

十二月十日より發賣

定價 並 二十錢
上 二十五錢

田村先生は我基督教徒家庭の案内者なり。先生がクリスチヤンホームの爲めに盡さるゝ熱心溢れ出でゝ此書となる。此書の有益なる知るべし。今やクリスマス近きに際し此書を世に紹介するを得るは實に弊店の幸なり。苟も潔きホームを慕ふの人は此書を讀め。苟も幼童を愛するの人は此書を人に送れ

發兌 東京新橋出雲町一番地 警醒社書店

詩文添削批評
河村巖城先生主任 謝料
隨意 諸郵券代用ハ 返稿
五日間 改正詳則ハ 郵券
貳錢送致次第進呈スベシ

陸奥國弘前代官町 華月館

注意

本館ハ專ラ文學ノ普及ヲ圖ルノ主意ナレハ如何ナル初學ノ詩文ト雖モ勉メテ丁寧精密ニ添削批評シ及ビ男女老少ヲ問ハズ苟モ詩文ノ研究ニ從事セント欲スル者ハ皆喜ンテ館員ノ盟ニ加ハルコヲ諾ス

震災遭難者救恤基督教徒設立事務所
岡山孤兒院出張孤兒救濟事務所
岐阜部
右明治二十四年十二月五日
岐阜市朝日町ニ移轉ス

皇后宮御覽
文部大臣子爵榎本武揚公題字
大學院醫學士三島通良先生編述

はゝのつとめ

增補訂正 第二版

親の卷 妊婦産婦の心得 定價金三十錢（郵税二錢）
子の卷 育兒法 定價金四十錢（郵税四錢）

右は我國無双完全無比なりとの好評を博したる日本子母（論）生書なり、華族女學校醫科大學産科婦人小兒科病室並に群馬縣高等小學其他の諸學校に於て參考書として用ゐらる、文章は談話體總平假字付にして極めて理解し易し。婦人方への贈物として最上の好品なり

書肆 通三丁目丸善。表神保町中西屋。馬喰町島利。春木町島利支店。通塩町中央堂

下六番町 女學雜誌社

雜誌 定價			
一冊	六錢	郵税。五厘	（但府内無郵税）
十一冊	五拾八錢	郵税。五錢	（同前）
半年分	壹圓四拾六錢	府外は	壹圓五拾六錢
一年分	貳圓六拾錢	府外は	貳圓八拾六錢

發行所 東京市麴町區下六番町六番地 女學雜誌社

編輯兼發行人 巖本善治

印刷人 堀口庄三

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

田村直臣君著

幼年の針路

定價並二十錢
上二十五錢

田村先生は我基督教徒家庭の案内者なり。先生がクリスチャンホームの爲めに盡さるゝ熱心溢れ出でゝ此書となる。此書の有益なる知るべし。今やクリスマス近きに際し此書を世に紹介するを得るは實に弊店の幸なり。苟も潔きホームを慕ふの人は此書を讀め。苟も幼童を愛するの人は此書を人に送れ

發兌　東京新橋出雲町一番地　警醒社書店

詩文添削批評

河村巖城先生主任

謝料　隨意●諸郵券代用

返稿　五日間

改正詳則ハ郵券貳錢送致次第進呈スベシ

陸奥國弘前代官町　華月館

注意

本館ハ專ラ文學ノ普及ヲ圖ルノ主意ナレハ如何ナル初學ノ詩文ト雖モ勉メテ丁寧精密ニ添削批評シ及ビ男女老少ヲ問ハズ苟モ詩文ノ研究ニ從事セント欲スル者ハ皆喜ンデ館員ノ盟ニ加ハルコヲ諾ス

震災遭難者救恤基督教徒設立事務所
岡山孤兒院出張孤兒救濟事務所

明治二十四年十二月五日

右　岐阜市朝日町ニ移轉ス

岐阜部

文部大臣子爵榎本武揚公題字
大學院醫學士三島通良先生編述

皇后宮御覽

はゝのつとめ

増補訂正第二版

親の卷　妊婦産婦の心得　定價金三十錢(郵稅二錢)
子の卷　育兒法　定價金四十錢(郵稅四錢)

右は我國無双完全無比なりとの好評を博したる日本子母論生書なり、華族女學校醫科大學産科婦人小兒科病室並に群馬縣高等小學其他の諸學校に於て參考書として用ゐらる、文章は談話體總平假字付にして極めて理解し易し。婦人方への贈物として最上の好品なり

書肆　通三丁目丸善。表神保町中西屋。馬喰町島利。春木町島利支店。通塩町中央堂。

下六番町　女學雜誌社

雜誌	一冊	六錢	郵稅。五厘	(但府內無郵稅)
	十二冊	五拾八錢	郵稅。五錢	(同前)
定價	半年分	壹圓四拾六錢	府外は	壹圓五拾六錢
	一年分	貳圓六拾錢	府外は	貳圓八拾六錢

發行所　東京市麹町區下六番町六番地　女學雜誌社

編輯兼發行人　巖本善治
印刷人　堀口庄三

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY